

- 問1 佐賀県の吉野ヶ里遺跡などの墳丘墓から出土する「細形銅剣」をはじめとした青銅器の性格について述べた文として、歴史的な事実と合致するものはどれですか。 (2021年 佐賀公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1. 鉄器に比べて硬度が高かったため、土木工事の道具として普及した | 2. 弥生時代を通じて、一貫して実戦での殺傷能力を追求した武器であった | 3. 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭りに用いられた | 4. 調理や食事を円滑に進めるために開発された、一般庶民の日常生活用具であった |
|-----------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|---|
- 問2 弥生時代に作られた銅鐸（どうたく）の表面には、梯子がかけられ、床が地面から高く持ち上げられた建築物の様子が描かれています。この建物が、主に収穫した米を蓄えるために用いられた名称として正しいものはどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 高床倉庫 | 2. 竪穴住居 | 3. 平地建物 | 4. 石舞台 |
|---------|---------|---------|--------|
- 問3 3世紀頃の倭国において、邪馬台国を中心に30ほどの国々をまとめ、中国の魏から「親魏倭王」の称号や金印を授けられた人物は誰ですか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1. 卑弥呼 | 2. 推古天皇 | 3. 持統天皇 | 4. 北条政子 |
|--------|---------|---------|---------|
- 問4 1世紀半ば、日本の小国の一つであった奴国の王が、中国の王朝である後漢へ使者を送った時期の社会状況として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 愛媛公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。 | 2. 狩猟や採集を生活の中心とし、ナウマンゾウなどの大型動物を追って移動を繰り返す生活を送っていた。 | 3. 仏教による国家の安定を図るため、聖武天皇の命によって全国各地に国分寺や国分尼寺が建立された。 | 4. 巨大な前方後円墳が築造されるようになり、その周囲には死者を供養するための埴輪が並べられた。 |
|--|--|---|--|
- 問5 3世紀の中国（魏）の歴史書には、当時の日本の様子が記述されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から授かった称号と品物の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------|-----------------|---------------|------------------|
| 1. 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡 | 2. 漢委奴国王の称号と、金印 | 3. 倭王武の称号と、鉄剣 | 4. 征夷大將軍の称号と、刀や鎧 |
|-------------------|-----------------|---------------|------------------|
- 問6 日本列島で稲作が広まり、人々が竪穴住居に住んで定住生活を行っていた時代について説明した記述があります。その記述には、大陸から伝わった銅鐸や銅鏡などの青銅器が祭りの道具として用いられていたことや、当時の中国の歴史書において日本が「100余りの国」に分かれていたと記されていることが示されています。この時代の名称として正しいものを選びなさい。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 弥生時代 | 2. 縄文時代 | 3. 古墳時代 | 4. 奈良時代 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問7 歴史上の出来事を整理する際、100年単位の「世紀」という区分が用いられます。例えば、西暦300年という年は、何世紀の終わりの年にあたりますか。 (2023年 山形公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|---------|
| 1. 3世紀 | 2. 2世紀 | 3. 4世紀 | 4. 30世紀 |
|--------|--------|--------|---------|
- 問8 倭の奴国の王が、中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀（西暦57年）ごろの世界情勢について、ヨーロッパや地中海周辺の動きを説明したものとして正しいものはどれですか。 (2026年 愛知公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 1. 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた | 2. アレクサンドロス大王が東方遠征を行い、ヘレニズム文化が広がっていた | 3. ギリシャ人が地中海沿岸の各地にポリス（都市国家）を建設し始めた | 4. 西ローマ帝国が滅亡し、ゲルマン人の大移動が本格化していた |
|---------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
- 問9 弥生時代に製作された青銅器の一種で、兵庫県の五十六点や島根県の五十四点をはじめ、滋賀県や和歌山県といった近畿地方の府県で多くの出土が確認されている、豊作を祈るなどの祭礼に用いられた道具を何というか。 (2024年 京都公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 1. 銅鐸 | 2. 銅矛 | 3. 石包丁 | 4. 勾玉 |
|-------|-------|--------|-------|
- 問10 弥生時代の祭祀で使われた青銅器のうち、釣鐘のような独特の形状をした道具について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 滋賀公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|---|--|---|
| 1. 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。 | 2. 土でつくられ、古墳の周囲に並べることによって死者の霊を慰める役割を果たした。 | 3. 非常に鋭い刃を持ち、敵と戦うための武器や木材を加工する工具として使われた。 | 4. 仏教の伝来とともに寺院に設置され、人々に時刻を知らせるために打ち鳴らされた。 |
|---------------------------------------|---|--|---|
- 問11 弥生時代から古墳時代にかけての日本列島において、当時の人々が衣服を仕立てる際に主な原料として用いていたものの組み合わせとして、正しいものを選びなさい。 (2026年 栃木公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|------------|---------|------------|
| 1. 麻と絹 | 2. 綿（木綿）と麻 | 3. 絹と羊毛 | 4. 綿（木綿）と絹 |
|--------|------------|---------|------------|
- 問12 中国の歴史書とそこに記された倭（日本）に関する記述の組み合わせについて、記述内容から判断して「魏志」倭人伝の説明として最も適切なものを選びなさい。 (2024年 沖縄公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 倭人が100余りの国に分かれ、朝鮮半島の楽浪郡に定期的に使者を送っていたとする記述 | 2. 倭の奴国の王が後漢の皇帝から金印を授かり、のちに倭国全体で大きな乱れが起きたとする記述 | 3. 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述 | 4. 倭王が中国の皇帝に対し、自らを「日出づる処の天子」と称する国書を送ったとする記述 |
|--|--|---|---|
- 問13 弥生時代に稲作が普及すると、土地や水の利用をめぐる集団間の争いが起こるようになりました。こうした外敵の攻撃から集落を守るために、周囲に深い堀や柵を巡らせた当時の集落の形態を何といいますか。 (2021年 愛知公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 環濠集落 | 2. 高地性集落 | 3. 竪穴住居 | 4. 高床倉庫 |
|---------|----------|---------|---------|
- 問14 弥生時代に大陸から伝わり、日本の社会を大きく変化させた稲作の広がりについて述べた文として、正しいものはどれか。 (2023年 佐賀公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。 | 2. 稲作は日本全土に均一に広まり、北海道や沖縄においてもこの時期に大規模な水田開発が行われた。 | 3. 稲作が伝わった直後に大王（おおきみ）と呼ばれる強力な支配者が現れ、全国の開墾を命令した。 | 4. 稲作の普及により、それまで使われていた打製石器がすべて消失し、すべてが青銅器や鉄器に置き換わった。 |
|---|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 富や権力を象徴し、村々のまとまりを強めるための儀式や祭りに用いられた	弥生時代の青銅器は、大陸では武器として使われていた形状を起源としています。日本国内では「祭りの道具」としての性格を強めていきました。例えば、銅剣はより薄く装飾的なものへ、銅鐸はより大型で音を響かせるものから観賞用のものへと変化しており、これらは農耕儀礼などの宗教的な場や、首長の権威を示す場において重要な役割を果たしていました。
問2	答え 1 高床倉庫	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための専用の建物が造られました。銅鐸などの表面に描かれた当時の絵画からも、梯子を使って登る床の高い建物の存在が確認されています。居住用の竪穴住居とは区別して使われていました。
問3	答え 1 卑弥呼	3世紀の日本について記した中国の歴史書『魏志倭人伝』によると、卑弥呼という女王が邪馬台国を統治していたとされています。彼女は魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、自らの権威を国内に示すとともに、外交的な地位を確立しました。
問4	答え 1 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。	紀元前後の弥生時代には、大陸から稲作技術や金属器（青銅器・鉄器）が伝来し、生産力が向上しました。これに伴い、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐる集落同士の争いが発生し、各地に小国が形成されました。奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは、こうした国内の勢力争いの中で中国の王朝を後ろ盾にしようとする意図があったと考えられています。
問5	答え 1 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡	中国の歴史書（魏志倭人伝）によると、3世紀に邪馬台国の卑弥呼が魏へ使いを送り、朝貢を行いました。その際、魏の皇帝から「親魏倭王」という称号とともに、その証となる金印や100枚の銅鏡などの返礼品を授けられたと記されています。なお、1世紀（紀元57年）に後漢の光武帝から金印を授かったのは奴国の王であり、混同しないよう注意が必要です。
問6	答え 1 弥生時代	紀元前数世紀から紀元後3世紀頃にかけての日本列島では、大陸から伝わった水稲耕作（稲作）が普及し、食料生産が安定したことで社会の仕組みが大きく変化しました。この時代、鉄器が武器や工具として使われる一方で、銅鐸などの青銅器は豊作を祈るための祭祀具として重宝されました。また、中国の歴史書『漢書』地理志には、当時の日本（倭）が100余りの小国に分かれ、一部の国が楽浪郡を通じて中国（漢）に使者を送っていたことが記されています。
問7	答え 1 3世紀	世紀の計算は西暦1年を起点として100年ごとに区切るため、各世紀の終わりの年は必ず100の倍数になります。1世紀は1年～100年、2世紀は101年～200年となるため、201年から始まった3世紀は、300年をもってその区切りを迎えることになります。301年からは4世紀に入ります。
問8	答え 1 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた	日本が後漢と交渉を持っていた紀元1世紀ごろ、ヨーロッパでは地中海全域を支配するローマ帝国が全盛期を迎えていました。この時期は中国の漢王朝とローマ帝国の間で、シルクロードを通じた間接的な交流が行われていた時代でもあります。ギリシャのポリス建設は紀元前8世紀ごろ、アレクサンドロス大王の遠征は紀元前4世紀ごろの出来事です。
問9	答え 1 銅鐸	弥生時代には、大陸から青銅器の技術が伝わり、日本では主に祭りの道具として独自に発展した。銅鐸は近畿地方を中心に、四国や中国地方からも多く発見されており、稲作の豊作を願う儀式などで使われたと考えられている。選択肢にある銅矛も青銅器だが、これらは九州地方を中心に多く出土する傾向がある。
問10	答え 1 表面に当時の狩猟や農耕の様子、生活風景を反映した文様が刻まれている。	釣鐘型の青銅器は「銅鐸（どうたく）」と呼ばれます。その表面には、鹿を狩る様子や稲作の風景、高床倉庫などが描かれていることがあり、当時の生活を知るための貴重な資料となっています。古墳時代に作られた埴輪や、実用的な武器としての鉄器とは役割が明確に異なります。
問11	答え 1 麻と絹	古代の日本における衣料原料は、植物から作られる麻や、蚕の繭から作られる絹が中心でした。現在、衣類に広く使われている綿（木綿）の栽培が大陸から伝わり、日本で一般的に普及するのは戦国時代から江戸時代にかけての後世のことであるため、弥生時代や古墳時代の選択肢としては不適切です。
問12	答え 3 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述	「魏志」倭人伝は、邪馬台国の政治体制や女王卑弥呼の死、そしてその後の大規模な埋葬儀礼について具体的に伝えています。他の選択肢について、100余りの国に分かれていたとするのは紀元前1世紀頃の「漢書」地理志、金印の授与や倭国の乱れ（倭国大乱）は1世紀から2世紀頃の様子を記した「後漢書」東夷伝、天子を自称したのは7世紀初頭の「隋書」倭国伝の記述です。
問13	答え 1 環濠集落	稲作の開始によって収穫物の貯蔵が可能になり、富をめぐる集団間の対立が発生しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるように、当時の人々は居住区の周囲に堀（環濠）を掘ったり、木の杭による柵を設けたりすることで、外部からの侵入を防ぐ工夫をしていました。これが環濠集落です。
問14	答え 1 稲作は九州から始まり、東北地方まで広がったが、当時の気候や環境の影響もあり北海道や沖縄を除く地域に定着した。	大陸から伝わった本格的な稲作は、九州北部から始まり、次第に本州、四国、東北地方へと広がっていきました。しかし、冷涼な気候の北海道や亜熱帯の沖縄にはこの段階では定着せず、それぞれの地域で独自の文化が営まれました。大王の出現は後の古墳時代のことです。

- 問1 弥生時代に現れた環濠集落は、それ以前の縄文時代の集落とは大きく異なる社会背景を持っています。このような形態の集落が全国的に出現した理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 愛知公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐる集団間の争いが激化したため | 2. 大陸との交易で得た貴重な青銅器や鉄器を、雨風や火災から物理的に保護する必要が生じたため | 3. 大規模な洪水被害から住居を守るために、集落の周囲に巨大な排水路を設ける必要があったため | 4. 渡来人から伝わった仏教の寺院を建立するにあたり、聖域と世俗の居住区を明確に区別するため |
|--|--|--|--|
- 問2 弥生時代に本格的に始まった稲作において、実った稲の穂先のみを摘み取って収穫するために使われた磨製石器を何というか。 (2016年 奈良公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|---------|-------|
| 1. 石包丁 | 2. 石鏃 | 3. 打製石斧 | 4. 石匙 |
|--------|-------|---------|-------|
- 問3 弥生時代の遺跡からは、青銅器と鉄器という二種類の金属器が発見されています。鉄器が農具の刃先として普及したことが、当時の社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 大阪公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|---|---|
| 1. 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。 | 2. 農具が重くなったことで、小規模な家族単位での農業が不可能になった。 | 3. 青銅器よりも希少価値が高かったため、王の権威を示すための宝物としてのみ扱われた。 | 4. 石器に比べて加工が簡単だったため、各家庭で容易に自給できるようになった。 |
|------------------------------------|--------------------------------------|---|---|
- 問4 3世紀の中国（魏）の歴史書には、当時の日本の様子が記述されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から授かった称号と品物の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------|-----------------|---------------|------------------|
| 1. 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡 | 2. 漢委奴国王の称号と、金印 | 3. 倭王武の称号と、鉄剣 | 4. 征夷大將軍の称号と、刀や鎧 |
|-------------------|-----------------|---------------|------------------|
- 問5 中国大陸や朝鮮半島から九州北部へ伝わった稲作が東日本へと広まった時代、収穫を祈る祭りが重要視されるようになりました。この時代に祭りの道具として作られた、つりがねのような形をした青銅器を何と呼びますか。 (2023年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 銅鐸 | 2. 打製石器 | 3. 縄文土器 | 4. 埴輪 |
|-------|---------|---------|-------|
- 問6 弥生時代の遺跡から発掘された人骨の中には、石の鏃（やじり）が刺さっていたり、鋭利な刃物によるものと思われる殺傷跡が残っていたりするものが多数見つかっています。このような人骨の発見から、当時の社会状況について推測されることとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 沖縄公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 水田稲作の普及にともない、土地や水をめぐる集落間の争い（戦い）が激しくなったこと | 2. 青銅器である銅鐸や銅鏡を、死者の権威を示すための副葬品として埋葬し始めたこと | 3. 狩猟や採集を中心とする生活の中で、獲物を奪い合うための小規模な小競り合いが増えたこと | 4. 古墳と呼ばれる巨大な墓を造るために、強制的な労働によって多くの犠牲者が出たこと |
|---|---|---|--|
- 問7 3世紀頃の倭国において、邪馬台国を中心に30ほどの国々をまとめ、中国の魏から「親魏倭王」の称号や金印を授けられた人物は誰ですか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1. 卑弥呼 | 2. 推古天皇 | 3. 持統天皇 | 4. 北条政子 |
|--------|---------|---------|---------|
- 問8 弥生時代、土を耕すための農具や敵と戦うための武器には、青銅ではなく主に「鉄」が材料として選ばれました。このように鉄器が実用品として普及した理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 大阪公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。 | 2. 鉄は青銅よりも融点が低く、当時の未熟な技術でも簡単に大量生産することができたから。 | 3. 鉄は日本列島で独自に発見された金属であり、大陸から輸入する必要があった青銅よりも安価だったから。 | 4. 青銅は非常に重く持ち運びが困難だったため、軽量の鉄が実用的な道具として好まれたから。 |
|--|--|---|---|
- 問9 3世紀に邪馬台国の卑弥呼が、中国の魏へ使節を送り「親魏倭王」の称号や銅鏡などを得た背景について、当時の日本の状況を踏まえた説明として正しいものはどれですか。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後ろ盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため | 2. 魏の軍勢力を直接日本に呼び寄せ、反対勢力を武力で一掃して一気に領土を拡大しようとしたため | 3. 中国が日本に対して朝貢を強制し、従わない場合は貿易を禁止すると通告してきたため | 4. 日本の優れた絹織物を中国全土に普及させ、大陸での市場独占を皇帝に認めてもらうため |
|---|---|--|---|
- 問10 弥生時代の食生活の変化をまとめた資料では、この時期に稲作が広まったことが記されています。これと同じ時代、1世紀の日本の様子について述べた、中国の歴史書『後漢書』東夷伝の内容として正しいものを選びなさい。 (2022年 広島公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1. 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。 | 2. 卑弥呼が魏の皇帝に使いを送り、「親魏倭王」の称号と金印を授けられた。 | 3. 倭の五王が中国の南朝に使者を送り、朝鮮半島での軍事的地位を認めさせた。 | 4. 推古天皇の使者として小野妹子が隋に渡り、対等な外交を求めた。 |
|-----------------------------------|---------------------------------------|--|-----------------------------------|
- 問11 佐賀県で発見された弥生時代の代表的な遺跡について述べた文として、正しいものはどれか。この遺跡は、大規模な堀や土塁を巡らせた集落の跡として知られている。 (2026年 大阪公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------------|---|--|
| 1. 吉野ヶ里遺跡では、外敵を防ぐための深い堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されている。 | 2. 登呂遺跡では、弥生時代の水田跡や木製農具が静岡県で発見されている。 | 3. 三内丸山遺跡では、縄文時代の大規模な定住集落跡が青森県で確認されている。 | 4. 唐古・鍵遺跡では、奈良県において弥生時代の環濠集落や多量の木製品が見つかった。 |
|---|--------------------------------------|---|--|
- 問12 稲作の伝来によって食料を蓄えることが可能になると、社会の仕組みが大きく変化しました。土地や水をめぐる争いが発生し、富や権力を持つ者が現れたことで生じた、当時の社会の変化として正しい説明を選びなさい。 (2023年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|--|
| 1. 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。 | 2. 人々は定住をやめ、マンモスを追いかけて移動する生活に戻った。 | 3. 朝廷が全国の人々を戸籍に登録し、すべての人に一律に口分田を支給した。 | 4. 身分差がなくなり、すべての村人が平等に食料を分配する仕組みが完成した。 |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|--|
- 問13 佐賀県に位置し、周囲に深い堀や土塁を巡らせた「環濠集落」の跡が発見された、弥生時代を代表する遺跡の名称を選びなさい。 (2022年 三重公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-----------|---------|---------|
| 1. 吉野ヶ里遺跡 | 2. 三内丸山遺跡 | 3. 岩宿遺跡 | 4. 登呂遺跡 |
|-----------|-----------|---------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐる集団間の争いが激化したため	本格的な稲作の開始は、人々に安定した食料をもたらしましたが、同時に「富の蓄積」と「貧富の差」を生み出しました。これにより、条件の良い耕作地や農業用水を独占しようとする集団同士の対立（戦争）が始まりました。自分の集落を守るために防御機能を備える必要があったことが、環濠集落が普及した最大の背景です。
問2	答え 1 石包丁	稲作が普及した弥生時代を代表する農具の一つです。当時は稲の品種が統一されておらず、一粒一粒の熟し方が異なっていたため、実ったものから順に摘み取る「穂首刈り」が行われていました。その際に使用されたのが、この磨製石器です。
問3	答え 1 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。	鉄は青銅よりも非常に硬いため、木製の農具の先端に装着することで、硬い土を掘り起こしたり森林を切り拓いたりすることが可能になりました。これにより耕作面積が拡大し、農業の生産性が飛躍的に高まりました。一方、祭祀用として重宝されたのは、鉄器ではなく主に青銅器（銅鏡や銅鐸など）の方でした。
問4	答え 1 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡	中国の歴史書（魏志倭人伝）によると、3世紀に邪馬台国の卑弥呼が魏へ使いを送り、朝貢を行いました。その際、魏の皇帝から「親魏倭王」という称号とともに、その証となる金印や100枚の銅鏡などの返礼品を授けられたと記されています。なお、1世紀（紀元57年）に後漢の光武帝から金印を授かったのは奴国の王であり、混同しないよう注意が必要です。
問5	答え 1 銅鐸	稲作が普及した弥生時代には、青銅器の製造技術も伝わりました。銅鐸は、主に豊作を祈るための祭祀用具として使われた特徴的な遺物です。一方、打製石器や縄文土器は稲作普及以前の縄文時代に主に使われていたものです。
問6	答え 1 水田稲作の普及にともない、土地や水をめぐる集落間の争い（戦い）が激しくなったこと	弥生時代に始まった水田稲作は、安定した収穫を得るために良好な土地の確保や用水路の管理が不可欠でした。これにより、資源をめぐる集落同士の利害対立が生まれ、人骨に残された殺傷跡や頭部のない人骨は、武力を用いた激しい争い（戦い）が日常的に行われていたことを物語っています。縄文時代にはこうした殺傷跡のある人骨は稀であり、生産活動の変化が社会構造を大きく変えたことを示しています。
問7	答え 1 卑弥呼	3世紀の日本について記した中国の歴史書『魏志倭人伝』によると、卑弥呼という女王が邪馬台国を統治していたとされています。彼女は魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、自らの権威を国内に示すとともに、外交的な地位を確立しました。
問8	答え 1 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。	鉄は青銅に比べて非常に硬く、刃先を鋭く研ぐことができるため、木を伐採したり土を掘り起こしたりする農具、あるいは高い殺傷能力が求められる武器に最適でした。対して青銅は、鉄に比べると柔らかく脆いため、激しい衝撃が加わる実用的な道具には不向きであり、主に祭祀用の道具（祭具）としてその価値を見出されました。
問9	答え 1 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後ろ盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため	当時の日本（倭）は、多くの小国が対立し合う「倭国大乱」を経て、女王卑弥呼による連合体である邪馬台国が形成された時期でした。依然として国内には対立勢力が存在していたため、卑弥呼は圧倒的な文化と武力を持つ魏の皇帝から「倭王」として認められることで、自らの統治能力と地位を盤石にしようと考えました。
問10	答え 1 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。	紀元1世紀、現在の福岡県付近にあったとされる「奴国」の王は、後漢の光武帝に使者を送りました。その事実は、江戸時代に志賀島（福岡県）で「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見されたことによって裏付けられています。3世紀の卑弥呼（魏志倭人伝）、5世紀の倭の五王（宋書）、7世紀の遣隋使（隋書）など、中国のどの王朝の時代に、誰がどのような目的で交渉したかを区別することが重要です。
問11	答え 1 吉野ヶ里遺跡では、外敵を防ぐための深い堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されている。	吉野ヶ里遺跡は佐賀県に位置し、弥生時代の全期間を通じて存在した国内最大級の環濠集落です。二重の堀や物見櫓、V字状に深く掘られた溝などが確認されており、当時の社会に争いがあったことを示しています。奈良県の唐古・鍵遺跡と場所を混同しないよう注意が必要です。
問12	答え 1 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。	稲作によって余剰生産物が生まれると、蓄えの多い者と少ない者の間で貧富の差が生じました。また、水資源を管理するリーダーが権力を持つようになり、小さな集団が統合されて「クニ」が形成されました。それらを統治する「王」が登場したことは、中国の歴史書にも記されています。なお、戸籍による口分田の支給は、後の律令国家の仕組み（班田収授の法）にあたります。
問13	答え 1 吉野ヶ里遺跡	弥生時代には、稲作に適した土地や水をめぐる争いが増えたため、防御機能を備えた集落が作られるようになりました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、大規模な環濠（堀）や物見やぐら、高床倉庫などが確認されており、当時の社会の様子を今に伝える極めて重要な遺跡です。なお、三内丸山遺跡は青森県の縄文時代の遺跡、岩宿遺跡は群馬県の旧石器時代の遺跡です。

- 問1 弥生時代の遺跡から見つかる、はしごを使って出入りする形式の建築物について、この建物が普及した背景として最もふさわしい歴史的な出来事はどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。 | 2. 気候の寒冷化が進んだため、人々が地面の冷気から逃れるために生活拠点を高い場所へ移したこと。 | 3. 仏教が伝来し、寺院の建築様式として床を高く作る技術が大陸から導入されたこと。 | 4. 大規模な戦争が絶えなかったため、敵を見張りやすくするために全ての建物を高く作ったこと。 |
|--|--|---|--|
- 問2 弥生時代、土を耕すための農具や敵と戦うための武器には、青銅ではなく主に「鉄」が材料として選ばれました。このように鉄器が実用品として普及した理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 大阪公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。 | 2. 鉄は青銅よりも融点が低く、当時の未熟な技術でも簡単に大量生産することができたから。 | 3. 鉄は日本列島で独自に発見された金属であり、大陸から輸入する必要があった青銅よりも安価だったから。 | 4. 青銅は非常に重く持ち運びが困難だったため、軽量の鉄が実用的な道具として好まれたから。 |
|--|--|---|---|
- 問3 弥生時代の遺跡の復元資料において、茅（かや）などの植物で葺かれた屋根が地面に接するほど低く設置され、地面を掘り下げて基礎としている住居が見られます。この住居と、同じ時代に稲などを保管するために作られた「高床倉庫」の構造上の最大の違いは何ですか。 (2018年 奈良公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1. 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている | 2. 住居は瓦で屋根を葺いているが、倉庫は茅や草を用いて屋根を葺いている | 3. 住居は木材を一切使わずに石だけで作られているが、倉庫は木材を中心に作られている | 4. 住居は円形のものしかないが、倉庫はすべて三角形の形をしている |
|---|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
- 問4 『魏志』倭人伝などの中国の歴史書に記述が見られ、3世紀ごろに争乱が続いていた倭国を治めるため、邪馬台国の女王として共立された人物は誰か。 (2016年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1. 卑弥呼 | 2. 推古天皇 | 3. 持統天皇 | 4. 神功皇后 |
|--------|---------|---------|---------|
- 問5 弥生時代に大陸から伝えられた金属器のうち、銅鐸や銅剣などの青銅器は、主にどのような目的で使用されていたと考えられますか。 (2019年 徳島公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた | 2. 土地を耕したり木を加工したりする実用的な工具として用いられた | 3. 都の東西に置かれた市で、布や米と交換される通貨として用いられた | 4. 食物を煮炊きしたり、貯蔵したりするための生活容器として用いられた |
|------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
- 問6 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。 (2026年 新潟公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 銅鐸 | 2. 銅鏡 | 3. 銅剣 | 4. 石包丁 |
|-------|-------|-------|--------|
- 問7 3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、当時の日本（倭）の様子が記されています。それによると、倭ではもともと男子を王としていましたが、国が乱れて互いに攻め合う状態が数年続きました。この混乱を収めるためにとられた歴史的な経緯として正しいものはどれですか。 (2020年 徳島公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------------|
| 1. 一人の女性を王として共立し、国をまとめた | 2. 中国の魏から派遣された総督が直接統治を行った | 3. 狗奴国の王が武力によって全ての小国を制圧した | 4. 仏教を国教として導入し、人々の信仰によって乱れを鎮めた |
|-------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------------|
- 問8 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。 (2021年 岡山公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 高床倉庫 | 2. 竪穴住居 | 3. 環濠集落 | 4. 前方後円墳 |
|---------|---------|---------|----------|
- 問9 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏に使いを送り「朝貢」を行った政治的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため | 2. 中国から仏教を公式に導入することで、宗教の力を用いて争いの絶えない国内を鎮めるため | 3. 中国の優れた文字（漢字）を学び、律令制度に基づいた中央集権国家をいち早く形成するため | 4. 中国の進んだ稲作技術を独占し、食料生産を安定させることで人口を増やすため |
|--|--|---|---|
- 問10 佐賀県に位置し、周囲に深い堀や土塁を巡らせた「環濠集落」の跡が発見された、弥生時代を代表する遺跡の名称を選びなさい。 (2022年 三重公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|-----------|---------|---------|
| 1. 吉野ヶ里遺跡 | 2. 三内丸山遺跡 | 3. 岩宿遺跡 | 4. 登呂遺跡 |
|-----------|-----------|---------|---------|
- 問11 紀元1世紀、倭の奴国の王が大陸へ使節を送り、後漢の皇帝から授けられたとされる金印について、その事実が記述されている中国の歴史書として正しいものはどれですか。 (2023年 富山公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|------------|------------|------------|
| 1. 「後漢書」東夷伝 | 2. 「魏志」倭人伝 | 3. 「宋書」倭国伝 | 4. 「隋書」倭国伝 |
|-------------|------------|------------|------------|
- 問12 弥生時代の生活の様子を描いた資料には、人々が稲の収穫作業を行い、その背景に柱の高い建築物が建てられている様子が見られます。収穫したコメを湿気や害獣から守るために、床を高くし「ネズミ返し」と呼ばれる板を柱に取り付けるなどの工夫を施したこの建築物の名称を答えなさい。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|-------|---------|
| 1. 高床倉庫 | 2. たて穴住居 | 3. 貝塚 | 4. 環濠集落 |
|---------|----------|-------|---------|
- 問13 弥生時代の高床（式）倉庫において、柱と床が接する部分に「ネズミ返し」と呼ばれる板状の部材が取り付けられた理由として、当時の社会背景を踏まえた説明はどれですか。 (2021年 佐賀公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。 | 2. 大陸から新たな建築技術が伝来し、建物の耐震性を高めて大規模な集落の崩壊を防ぐ必要があったから。 | 3. 定住生活が始まったことで、家畜として飼育し始めた動物が建物内に入り込むを防ぐ必要があったから。 | 4. 集落間の争いが激しくなったため、床下に敵が潜り込んで火を放つことを防ぐ防御壁が必要だったから。 |
|--|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。	高床倉庫の普及は、弥生時代の最大の特徴である稲作（水田稲作）の普及と密接に関連しています。縄文時代の狩猟・採集中心の生活とは異なり、稲作は計画的な生産と「余剰生産物」の貯蔵を可能にしました。この「蓄え」としての米をネズミや湿気から守るために、高床倉庫という特殊な建築様式が発達したのです。この貯蔵の有無は、のちに集団内での貧富の差や、土地や水を巡る戦いへとつながる社会構造の変化の出発点となりました。
問2	答え 1 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。	鉄は青銅に比べて非常に硬く、刃先を鋭く研ぐことができるため、木を伐採したり土を掘り起こしたりする農具、あるいは高い殺傷能力が求められる武器に最適でした。対して青銅は、鉄に比べると柔らかく脆いため、激しい衝撃が加わる実用的な道具には不向きであり、主に祭祀用の道具（祭具）としてその価値を見出されました。
問3	答え 1 住居は地面を掘り下げて床を作っているが、倉庫は柱によって床を高い位置に設けている	たて穴住居は地面を掘り下げて床を作ることによって住空間を確保していましたが、収穫した稲を保管する高床倉庫は、湿気やネズミなどの害を防ぐために床を地面から高く離れた構造をとっていました。同じ集落内であっても、目的によって構造が明確に使い分けられていたことがわかります。
問4	答え 1 卑弥呼	3世紀の邪馬台国において、呪術的な力を用いて国を治めたとされる女王です。中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かりました。推古天皇は飛鳥時代の最初の女帝、持統天皇は飛鳥時代後半の女帝であり、時代が異なります。
問5	答え 1 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた	弥生時代に鉄器とともに大陸から伝わった青銅器は、鉄器が武器や工具として実用的に使われたのに対し、銅鐸や銅剣などは音を鳴らしたり飾ったりする祭礼用の道具として用いられました。稲作の普及にとともに、豊作を祈るなどの集団の儀式が重要になった背景があります。なお、食物を煮炊きする道具としては、この時代は弥生土器が、のちの時代には須恵器などが用いられました。
問6	答え 1 銅鐸	弥生時代には大陸から金属器の技術が伝わり、青銅器と鉄器がほぼ同時に使われ始めました。青銅器のうち、釣鐘の形をした銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、豊作を祈るための祭りの道具として用いられたと考えられています。
問7	答え 1 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた	当時の倭（日本）では、小国同士が激しく争う「倭国大乱」と呼ばれる時期がありました。この混乱を収拾するため、複数の小国が連合し、まじないや宗教的な権威を持つ卑弥呼を女王として立てることで国内の安定を図ったことが『魏志倭人伝』に記されています。
問8	答え 1 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問9	答え 1 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため	当時の日本（倭）は多くの小国が争っている状態でしたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合をまとめ、中国の強大な王朝である魏に朝貢しました。魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印を授かることで、中国という後ろ盾があることを他の国々に見せつけ、国内の統治を有利に進めようとする外交上の狙いがありました。
問10	答え 1 吉野ヶ里遺跡	弥生時代には、稲作に適した土地や水をめぐる争いが増えたため、防御機能を備えた集落が作られるようになりました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、大規模な環濠（堀）や物見やぐら、高床倉庫などが確認されており、当時の社会の様子を今に伝える極めて重要な遺跡です。なお、三内丸山遺跡は青森県の縄文時代の遺跡、岩宿遺跡は群馬県の旧石器時代の遺跡です。
問11	答え 1 「後漢書」東夷伝	紀元57年に倭の奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かったという出来事は、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。3世紀の邪馬台国や卑弥呼について記された『魏志』倭人伝（『三国志』の一部）と混同しやすいため、時代背景と歴史書の対応を正確に理解しておく必要があります。
問12	答え 1 高床倉庫	弥生時代には大陸から伝わった稲作が東日本を含む日本各地に広まり、食料を保存する必要が生じました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気を防ぎ、コメが腐るのを防ぐとともに、柱の途中に板を取り付けることでネズミなどの害獣が侵入するのを防ぐ仕組みを持っていました。
問13	答え 1 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。	弥生時代の大きな特徴は、本格的な稲作の開始により食料の「貯蔵」が可能になったことです。蓄えられた米は人々の命をつなぐ重要な資源であり、これをネズミなどの害獣に食い荒らされることは、集落の存続に関わる重大な問題でした。そのため、物理的に侵入を遮断する「ネズミ返し」という構造が必要とされました。このような食料の蓄積は、後の貧富の差や身分の違い、集落同士の争いにもつながっていきます。

問1	奈良県などの古墳から出土する銅鏡などの考古資料は、当時の中国の王朝から邪馬台国の女王へ贈られたものである可能性が検討されています。中国の歴史書には、卑弥呼が「親魏倭王」の称号とともに百枚の銅鏡を授かったという記述がありますが、このとき外交関係を結んでいた中国の王朝名を答えなさい。 （2021年 奈良公立入試 類似）			
	1. 魏	2. 秦	3. 隋	4. 唐
問2	邪馬台国の女王卑弥呼に関する記述として、最も適当なものはどれか。 （2016年 北海道公立入試 類似）			
	1. 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。	2. 摂政である聖徳太子とともに、冠位十二階や十七条の憲法を定めた。	3. 日本で初めて本格的な都城である藤原京を造営し、国家体制を整えた。	4. 夫である天皇の死後、軍を率いて朝鮮半島へ出兵したという伝説がある。
問3	1世紀半ばの日本（倭）において、九州にあった奴国の王が中国の王朝に使者を送り、皇帝から金印を授けられたという記録が中国の歴史書に残されています。このとき、奴国の王に金印を授けた中国の王朝として正しいものを次の中から選びなさい。 （2026年 山口公立入試 類似）			
	1. 漢	2. 秦	3. 魏	4. 隋
問4	3世紀の中国の歴史書には、当時の倭（日本）の様子が詳しく記されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が亡くなった際、直径100余歩（約150メートル）もの大きな塚が造られ、100人余りの奴隷と一緒に埋められたといった、当時の社会の様子や埋葬の風習を伝えている資料の名称を選びなさい。 （2024年 沖縄公立入試 類似）			
	1. 「魏志」倭人伝	2. 「漢書」地理志	3. 「後漢書」東夷伝	4. 「隋書」倭国伝
問5	縄文時代末期に大陸から北九州地方へ稲作が伝来したことにより、その後の社会の仕組みはどのように変化しましたか。最も適切な説明を選びなさい。 （2016年 奈良公立入試 類似）			
	1. 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐる争いが生じるようになった。	2. 全国で狩猟や採集が完全に行われなくなり、全ての集落が移動をしない定住生活を同時に開始した。	3. 大陸との交易が独占されたため、各地の集落が独立したまま争いのない平和な時代が続いた。	4. 米を貨幣として使用する制度がすぐに確立し、中央集権的な国家が全国に一斉に誕生した。
問6	弥生時代の日本列島では、鉄器と青銅器という2種類の金属器が使われていました。鉄器が主に生産や戦いの道具として発展したのに対し、青銅器が主に「祭祀や儀式の道具」として用いられた理由として、最も適切な説明はどれですか。 （2020年 熊本県公立入試 類似）			
	1. 鉄に比べて強度が低く実用的な道具には不向きだったが、その希少性や美しさが信仰の場で重視されたため	2. 大陸から伝わった時期が鉄器よりも大幅に遅く、すでに農具としての鉄器が普及していたため	3. 加工が非常に困難であり、当時の技術では小さな鏡や鈴の形にすることができなかったため	4. 青銅には殺菌作用があると考えられており、食料の保存や医療用の道具として限定的に使われたため
問7	弥生時代の遺跡からは、青銅器と鉄器という2種類の金属器が発見されています。鉄器が農具の刃先として普及したことが、当時の社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。 （2023年 大阪公立入試 類似）			
	1. 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。	2. 農具が重くなったことで、小規模な家族単位での農業が不可能になった。	3. 青銅器よりも希少価値が高かったため、王の権威を示すための宝物としてのみ扱われた。	4. 石器に比べて加工が簡単だったため、各家庭で容易に自給できるようになった。
問8	弥生時代の社会や文化について述べた次の文のうち、近畿地方を中心に分布する青銅器である「銅鐸」の特徴や背景を説明したものとして最も適切なものはどれか。 （2020年 大分県公立入試 類似）			
	1. 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。	2. 死者を埋葬する際に副葬品として納められた装飾品で、魔除けなどの意味を持っていた。	3. 古墳の墳丘に並べられた焼き物であり、葬られた王の権威を示したり聖域を区切ったりする役割があった。	4. 実用的な武器として使われたのち、次第に祭祀用へと変化したもので、九州地方北部で多く出土する。
問9	佐賀県で発見された、弥生時代の大規模な環濠集落の跡として知られる遺跡について述べた文として、適切なものはどれですか。 （2016年 岐阜公立入試 類似）			
	1. 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。	2. 縄文時代の集落跡であり、大型の竪穴住居やクリの栽培跡が確認されている。	3. 相沢忠洋によって発見された、日本に旧石器時代が存在したことを証明する遺跡である。	4. 戦国時代から江戸時代にかけて銀の採掘が行われた、世界遺産に登録されている遺跡である
問10	弥生時代の大規模な集落に見られる「環濠集落」について、集落の周囲に深い壕や柵を設けた当時の社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 （2025年 群馬公立入試 類似）			
	1. 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため	2. 仏教が伝来したことで、寺院を中心とした聖なる空間を俗世間から区別するため	3. 大陸から伝わった最新の建築技術を誇示し、周辺の豪族に対して政治的優位を示すため	4. 大規模な洪水や高潮などの自然災害から、住居や高床倉庫が流されるのを防ぐため
問11	長崎県杵岐市の「原の辻遺跡」は、大規模な環濠集落を特徴とし、中国の歴史書に登場する「一支国（いきこく）」の王都とされています。この一支国も含まれる当時の倭国の様子や、女王卑弥呼が中国へ使者を送った出来事について詳しく記されている書物はどれですか。 （2017年 長崎県公立入試 類似）			
	1. 『魏志』倭人伝	2. 『漢書』地理志	3. 『後漢書』東夷伝	4. 『宋書』倭国伝
問12	中国の歴史書「魏志倭人伝」に記録されている邪馬台国の女王卑弥呼は、当時の中国の王朝である魏に使いを送りました。卑弥呼がこのような外交を行った背景や、その結果として得た称号について述べた文として正しいものはどれですか。 （2026年 大阪公立入試 類似）			
	1. 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。	2. 仏教を日本に広めるための援助を求め、皇帝から「倭王武」の称号を授かった。	3. 白村江の戦いでの協力を依頼するため、皇帝から「日本国王」の称号を授かった。	4. 大陸の優れた青銅器技術を独占するため、皇帝から「遣隋使」として認められた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 魏	当時の邪馬台国と中国との関係は、歴史書などの文字資料だけでなく、出土した銅鏡などの物的な資料からも研究されています。卑弥呼が使いを送った魏という国は、当時の日本（倭）に対してその権威を認める証として鏡や金印を与えました。出土した銅鏡と文献の記述を照らし合わせることで、当時の東アジアにおける交流の実態や、日本列島における国家形成の過程が明らかにされようとしています。
問2	答え 1 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。	『魏志』倭人伝には、卑弥呼が239年に魏へ使いを送り、その返礼として金印や銅鏡100枚を与えられたと記されています。他の選択肢は、それぞれ推古天皇、持統天皇、神功皇后に関連する内容であり、卑弥呼の事績ではありません。
問3	答え 1 漢	中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から印綬（金印）を授かったことが記されています。この金印は、江戸時代に福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の文字が刻まれたものと一致すると考えられています。設問にある1世紀という時期は、中国では漢（後漢）の時代にあたります。
問4	答え 1 『魏志』倭人伝	中国の三国時代における「魏」の歴史を記した『三国志』の一部である「魏志」倭人伝には、邪馬台国の女王卑弥呼が魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かったこと、そして彼女の死後に巨大な墳丘墓が造られたことなどが詳細に記述されています。この記述は、その後の日本における古墳文化の成立を考える上でも重要な手がかりとなっています。
問5	答え 1 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐる争いが生じるようになった。	稲作によって収穫された米は、それまでの狩猟・採集による食料とは異なり、長期保存が可能でした。これが余剰生産物としての「富」を生み、それを管理するリーダーの出現や、有利な土地を確保するための集落間の紛争、さらには身分の格差へとつながり、社会の構造を大きく変える要因となりました。
問6	答え 1 鉄に比べて強度が低く実用的な道具には不向きだったが、その希少性や美しさが信仰の場で重視されたため	青銅（銅とスズの合金）は鉄に比べて柔らかく、激しい衝撃が加わる武器や農具として使うとすぐに傷んでしまう欠点がありました。しかし、鑄造によって複雑な模様を表現しやすく、磨き上げると金色に輝くといった装飾的な特徴があったため、集団の結束を高めるための祭りや、神聖な儀式の象徴として利用されるようになりました。
問7	答え 1 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。	鉄は青銅よりも非常に硬いため、木製の農具の先端に装着することで、硬い土を掘り起こしたり森林を切り拓いたりすることが可能になりました。これにより耕作面積が拡大し、農業の生産性が飛躍的に高まりました。一方、祭祀用として重宝されたのは、鉄器ではなく主に青銅器（銅鏡や銅鐸など）の方でした。
問8	答え 1 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。	銅鐸は、弥生時代の人々にとって極めて重要であった稲作の祭礼に深く関わっています。表面に描かれた鹿を狩る様子や、高床倉庫、脱穀する人々の姿などの絵画資料は、文字を持たなかった当時の社会を知るための貴重な手がかりとなっています。なお、九州北部で多く見られるのは銅剣や銅矛であり、銅鐸とは分布域が異なります。
問9	答え 1 物見やぐらや竪穴住居が復元されており、銅鏡や銅鐸などの青銅器が出土している。	吉野ヶ里遺跡は佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡です。この遺跡では、防御のための堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されており、復元された物見やぐらや、祭祀に使われたと考えられる銅鐸などの青銅器が出土しているのが特徴です。選択肢にある縄文時代の集落は三内丸山遺跡、旧石器時代の遺跡は岩宿遺跡、銀山は石見銀山遺跡を指しています。
問10	答え 1 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため	縄文時代にはあまり見られなかった集落同士の争いは、弥生時代に入り稲作による余剰生産物（富）が生まれたことで発生しました。吉野ヶ里遺跡などの調査からは、集落全体を壕や柵で囲むだけでなく、物見櫓を立てて外敵を監視していた様子も判明しており、当時の社会が非常に緊張感のある状態にあったことを示しています。
問11	答え 1 『魏志』倭人伝	3世紀の日本の社会情勢や地理、卑弥呼の統治については、中国の三国時代の歴史書「三国志」の一部である『魏志』倭人伝に記載があります。原の辻遺跡のような環濠集落の存在は、当時の倭国が多くの小国に分かれ、交易を行いながらも対立や防衛を繰り返していた社会状況を裏付けています。
問12	答え 1 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。	卑弥呼は、中国の王朝である魏に使者を送ることで、当時の先進国である中国の皇帝から自らの統治を認めてもらおうとしました。その結果、魏の皇帝から「親魏倭王（しんぎわおう）」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、その権威を背景に国内の統治を安定させようとしたと考えられています。

- 問1 兵庫県神戸市の桜ヶ丘町などで出土した、釣り鐘のような独特の形をした弥生時代の青銅器について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この青銅器の表面には、当時の生活の様子や幾何学的な文様が描かれていることがあります。 (2021年 大阪公立入試 類似)
- 縄文時代の集落で見つかる、魔除けのために作られた土偶である
 - 魏の皇帝から邪馬台国の女王に贈られたとされる銅鏡である
 - 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である
 - 古墳の副葬品として納められた、馬に装着する鉄製の装具である
- 問2 邪馬台国の女王卑弥呼が、当時の中国の王朝である魏に使いを送った背景やその後の状況を説明した文として、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 山形公立入試 類似)
- 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。
 - 大陸の優れた仏教文化を直接取り入れるために、公式な使節として小野妹子を魏の都へ派遣した。
 - 倭の奴国の王として、後漢の皇帝から金印を授かり、九州地方の交易の利権を独占しようとした。
 - 秦の始皇帝に対して不老不死の薬を献上することで、国内の争いを鎮めるための軍事支援を求めた。
- 問3 弥生時代の遺跡からは、中央に2つの穴が開いた半月形の石器が数多く出土します。この道具を用いた当時の収穫方法と、その特徴について説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
- 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。
 - 穴に長い木の柄を取り付け、稲を根元から一気に刈り取る「根刈り」を行っていた。
 - 石器の鋭い側面を使い、脱穀のために稲の茎から籾をこすり落としていた。
 - 複数の石器を組み合わせて土を掘り起こし、田植えの前の耕作に使用していた。
- 問4 弥生時代の遺跡から発掘される人骨に見られる特徴のうち、当時の社会において集落間の対立が激化したことを示す根拠として正しいものはどれですか。 (2022年 沖縄公立入試 類似)
- 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること
 - 人骨の周囲に、祭祀に用いられたと考えられる銅鐸や銅剣が大量に並べられていること
 - 人骨が、身分に応じた大きさや形の異なる前方後円墳などの古墳から発見されること
 - 骨の成分分析から、家畜の肉を主食としていたことが判明し、獲物の奪い合いが推測されること
- 問5 弥生時代の稲作の普及に伴って変化した人々の生活や道具について述べたものとして、正しいものはどれか。 (2023年 佐賀公立入試 類似)
- 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。
 - 人々は獲物を求めて移動生活を続け、土器は表面に縄目の文様がある厚手で大まかな作りのものが主流となった。
 - 稲作を管理するために、強力な権力を持つ支配者が各地に巨大な前方後円墳を築かせた。
 - 金属器はまだ伝わっていなかったため、すべて木製の農具と黒曜石の打製石器のみで耕作が行われた。
- 問6 弥生時代に作られた銅鐸（どうたく）の表面には、梯子がかけられ、床が地面から高く持ち上げられた建築物の様子が描かれています。この建物が、主に収穫した米を蓄えるために用いられた名称として正しいものはどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
- 高床倉庫
 - 竪穴住居
 - 平地建物
 - 石舞台
- 問7 弥生時代に使用された土器の一般的な特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- 表面に縄目の文様が全体に施されており、厚手で黒褐色をしている。
 - 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。
 - 呪術的な目的から、表面に激しい隆起や複雑な装飾が施されている。
 - ろくろを使用せずに低温で焼かれたため、形が歪んでおり非常に厚くて脆い。
- 問8 邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏（ぎ）へ使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
- 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため
 - 魏の強力な軍勢力を日本に直接呼び寄せ、九州地方の反乱勢力を武力で鎮圧するため
 - 魏の優れた律令制度をそのまま日本に導入し、中央集権国家をいち早く確立するため
 - 魏と共同で朝鮮半島の高句麗を攻撃し、領土を拡大するための軍事同盟を結ぶため
- 問9 1世紀半ば、奴国の王が中国の王朝（漢）に使者を送り、金印を授けられたという出来事について、その当時の国際関係のあり方や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2026年 山口公立入試 類似)
- 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ることで、自身の王としての地位を認めさせ、国内での権威を高めようとした
 - 対等な立場での外交を求める国書を送り、大陸の進んだ律令制度を日本へ速やかに導入することを目的とした
 - 朝鮮半島での軍事的な優位を確保するため、中国の王朝と軍事同盟を結び、援軍を派遣してもらう約束を取り付けた
 - 仏教を日本に広めるため、優れた経典や仏像を日本へ持ち帰る許可を皇帝に求める使節を派遣した
- 問10 弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 広島公立入試 類似)
- 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を高めようとした。
 - 鉄製農具や須恵器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。
 - 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。
 - 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。
- 問11 弥生時代から古墳時代にかけて、収穫道具が「石包丁」から「鉄鎌」へと変化したことに伴い、収穫の方法はどのように変化したか。 (2016年 奈良公立入試 類似)
- 実った穂先だけを摘み取る方法から、株の根元から刈り取る方法へと変化した
 - 地中の根を掘り起こす方法から、穂を叩いて実を落とす方法へと変化した
 - 手作業で一粒ずつ拾う方法から、土器を使って一度に回収する方法へと変化した
 - 石の表面で穀を削る方法から、金属の刃で穂を細かく刻む方法へと変化した
- 問12 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために用いられた建築物の構造と、その目的について説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
- 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。
 - 地面を円形や方形に掘り下げて床とし、防寒性を高めることで家族が共同で生活するための居住空間とした。
 - 建物の周囲に石垣を高く積み上げ、収穫した作物を敵対する他の集落による略奪から守るための防衛施設とした。
 - 建物の周りに深い堀を巡らせ、収穫物が雨水によって浸水したり流失したりするのを防ぐ排水機能を重視した。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である	釣り鐘状の青銅器は銅鐸と呼ばれ、弥生時代の文化を象徴する遺物です。銅鐸の表面には、当時の人々が狩りをする姿や、高床倉庫、稲作の様子などが浮き彫りで描かれているものがあり、文字のない時代の生活を知るための重要な手がかりとなっています。縄文時代の土偶や、古墳時代の鉄製武器とは時代や特徴が異なります。
問2	答え 1 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。	当時の倭は多くの小国に分かれて争っていましたが、卑弥呼が強力な魏の皇帝から「倭の王」として認められ、称号や贈り物を授かることは、周辺の国々に対して自らの政治的正当性を示す外交的な手段でした。この記録が残る『魏志倭人伝』によって、当時の日本に存在した邪馬台国の統治体制や社会の様子が現代に伝えられています。
問3	答え 1 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。	当時の稲は現在の品種とは異なり、一斉に実るのではなく時期にばらつきがあったと考えられています。そのため、石包丁を用いて熟した穂だけを丁寧に選んで摘み取る「穂首刈り」という収穫方法がとられていました。中央の2つの穴は、作業中に道具が手から落ちないように、植物の繊維などで作った紐を通して指に固定するための工夫です。
問4	答え 1 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること	弥生時代の遺跡では、戦いによって傷ついた人骨や、鋭利な道具で切断された跡がある人骨がしばしば発見されます。これは、土地や水をめぐる「争い」が社会的に定着したことを示す考古学的な証拠です。銅鐸は祭りや儀式に用いられた道具であり、争いの直接的な証拠ではありません。また、古墳に埋葬されるようになるのは後の古墳時代の特徴であり、弥生時代の争いの証拠とは区別する必要があります。
問5	答え 1 収穫した稲を湿気やネズミから守るために高床倉庫が造られ、穂首を刈り取るための石包丁などが使われた。	稲作の定着により、食料を貯蔵するための高床倉庫が造られるようになりました。また、石包丁による「穂首刈り」が行われ、木製農具や、大陸から伝わった金属器（鉄器・青銅器）も併用されるようになりました。縄目の文様の土器は縄文時代、前方後円墳は古墳時代の特徴です。
問6	答え 1 高床倉庫	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための専用の建物が造られました。銅鐸などの表面に描かれた当時の絵画からも、梯子を使って登る床の高い建物の存在が確認されています。居住用の竪穴住居とは区別して使われていました。
問7	答え 2 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。	弥生土器は、縄文土器に比べて高い温度で焼かれるようになったため、薄くて硬いという特徴を持ちます。縄文土器に見られるような激しい装飾や複雑な文様は少なくなり、機能性を重視したシンプルな作りが特徴です。
問8	答え 1 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため	卑弥呼が魏に朝貢したのは、当時アジアで強大な勢力を持っていた中国の皇帝から「王」として認められることで、国内の他の勢力に対して自分の正当性を示す目的がありました。金印や銅鏡といった贈り物は、その権威を視覚的に周囲へ誇示するための重要な道具として利用されました。
問9	答え 1 中国の皇帝に朝貢してその支配下に入ること、自身の王としての地位を認めさせ、国内での権威を高めようとした	当時の日本（倭）は多くの小国に分かれて争っており、各国の王は、強大な力を持つ中国の皇帝に貢物を捧げる「朝貢」を行いました。それに対して皇帝がその土地の支配権を認める（冊封）ことで、王は自国内や周辺の国々に対して自分の正統性や優位性を誇示しようとしていました。1世紀の奴国の王による外交も、こうした背景によるものです。
問10	答え 1 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。	弥生時代の日本では、稲作の普及に伴って貧富の差や対立が生まれ、各地に小国が形成されました。1世紀の57年、倭の奴国の王は中国（後漢）の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。これは、当時文明の進んでいた中国の皇帝に認められることで、他の小国に対する優位性を保ち、自らの支配権を強化する狙いがありました。選択肢にある鉄製農具や須恵器の普及、前方後円墳の築造は後の時代の特徴であり、土偶は縄文時代の文化です。
問11	答え 1 実った穂先だけを摘み取る方法から、株の根元から刈り取る方法へと変化した	石包丁は「穂首刈り」に適した道具でしたが、鉄製の鎌が普及すると、稲を根元から切り取る「根刈り」が可能になりました。根刈りは収穫の効率を大幅に高めただけでなく、収穫後の藁（わら）を家畜の飼料や肥料、わら細工などの資材として活用することにもつながりました。
問12	答え 1 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。	弥生時代に本格的な稲作が始まると、秋に収穫した米を翌年の春まで保存するなどの長期間の貯蔵が必要になりました。高床倉庫は、床を高くすることで地面からの湿気が伝わるのを防ぎ、米が腐るのを抑える工夫がなされています。また、柱の上の部分には「ねずみ返し」と呼ばれる板が取り付けられ、食料を食い荒らすネズミの侵入を防いでいました。選択肢にある地面を掘り下げる建築物は竪穴住居であり、主に居住用として使われていたものです。

- 問1 弥生時代の文化を象徴する遺物である「銅鐸」について、その使用目的や出土傾向を正しく説明しているものはどれか。 (2024年 京都公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。 | 2. 実際の戦いや狩猟で使用するための実戦的な武器として、東日本を中心に広く普及した。 | 3. 縄文時代から続く伝統的な風習において、死者を埋葬する際に手足に装着する装身具として使われた。 | 4. 最新の農耕技術を伝えるための工具として、兵庫県や島根県などの沿岸部のみで限定的に使用された。 |
|--|---|---|---|
- 問2 稲作の伝来によって食料を蓄えることが可能になると、社会の仕組みが大きく変化しました。土地や水をめぐる争いが発生し、富や権力を持つ者が現れたことで生じた、当時の社会の変化として正しい説明を選びなさい。 (2023年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|--|
| 1. 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。 | 2. 人々は定住をやめ、マンモスを追いかけて移動する生活に戻った。 | 3. 朝廷が全国の人々を戸籍に登録し、すべての人に一律に口分田を支給した。 | 4. 身分差がなくなり、すべての村人が平等に食料を分配する仕組みが完成した。 |
|--|-----------------------------------|---------------------------------------|--|
- 問3 弥生時代に大陸から伝わった金属器のうち、銅剣や銅矛、銅鐸などの青銅器は、時代が進むにつれて本来の武器としての役割から変化し、どのような目的で用いられるようになりましたか。 (2020年 沖縄公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------|---------------------|---------------------|----------------------|
| 1. 豊作などを祈るための祭りの道具 | 2. 定期市で品物を交換するための貨幣 | 3. 仏教の教えを広めるための儀式用具 | 4. 巨大な古墳を築造するための土木用具 |
|--------------------|---------------------|---------------------|----------------------|
- 問4 3世紀頃の日本（倭）の様子について記された中国の歴史書『魏志』倭人伝には、「長年、国々が争い合って混乱していたため、人々は一人の女子を王に立てた」という趣旨の記述があります。このとき、邪馬台国の女王として擁立された人物は誰ですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|---------|---------|
| 1. 卑弥呼 | 2. 耜与 | 3. 推古天皇 | 4. 持統天皇 |
|--------|-------|---------|---------|
- 問5 邪馬台国の女王卑弥呼が、当時の中国の王朝である魏に使いを送った背景やその後の状況を説明した文として、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 山形公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。 | 2. 大陸の優れた仏教文化を直接取り入れるために、公式な使節として小野妹子を魏の都へ派遣した。 | 3. 倭の奴国の王として、後漢の皇帝から金印を授かり、九州地方の交易の利権を独占しようとした。 | 4. 秦の始皇帝に対して不老不死の薬を献上することで、国内の争いを鎮めるための軍事支援を求めた。 |
|--|---|---|--|
- 問6 1世紀半ばに日本の「奴国」の王が中国へ使者を送り、皇帝から金印を授かったという出来事が記されている、当時の中国の歴史書として正しいものを答えなさい。 (2016年 大阪公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|-------|---------|
| 1. 後漢書 | 2. 魏志 | 3. 史記 | 4. 日本書紀 |
|--------|-------|-------|---------|
- 問7 弥生時代に作られた青銅器の一種で、釣鐘のような形をしており、表面に流水紋や当時の狩猟・農耕の様子が描かれていることがある、稲作の祭りなどに使われたとされる遺物を何というか名称を答えなさい。 (2020年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 銅鐸 | 2. 勾玉 | 3. 埴輪 | 4. 銅鏡 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問8 弥生時代に使用された青銅器である「銅鐸」の変化や、当時の社会における役割について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2020年 山口公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす楽器として使われたが、次第に大型化し、豊作を祈る儀式で飾るための道具へと変化した。 | 2. もともとは実戦で使うための鋭い刃を持つ武器であったが、次第に大型で薄い形状になり、首長の権威を示すための宝物として扱われるようになった。 | 3. 死者の霊を守るためや王の権力を誇示するために、古墳の表面に並べられた土製の焼き物として、全国各地の有力な豪族の間で広まった。 | 4. 大陸の王朝から日本の王に授けられたもので、金印とともに当時の日本が中国の皇帝に認められていたことを示す外交上の重要な証拠となった。 |
|---|---|---|--|
- 問9 江戸時代に志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印や、3世紀の歴史書に記された卑弥呼が「親魏倭王」の称号を授かったという記述は、当時の日本と中国のどのような関係を示していますか。 (2021年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係 | 2. 日本が中国の王朝に対して軍事的な圧力をかけ、金印や称号を無理やり奪い取った関係 | 3. 中国の皇帝が日本の優れた統治体制に学び、日本の王に中国の政治顧問を依頼した関係 | 4. 日本と中国が対等な立場での自由貿易を約束し、称号の交換を経済的な儀礼とした関係 |
|--|--|--|--|
- 問10 日本列島で稲作が広まり、人々が竪穴住居に住んで定住生活を行っていた時代について説明した記述があります。その記述には、大陸から伝わった銅鐸や銅鏡などの青銅器が祭りの道具として用いられていたことや、当時の中国の歴史書において日本が「100余りの国」に分かれていたと記されていることが示されています。この時代の名称として正しいものを選びなさい。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 弥生時代 | 2. 縄文時代 | 3. 古墳時代 | 4. 奈良時代 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問11 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、周囲を深い堀や土壁で囲んだ大規模な環濠集落である。このような集落が造られた当時の社会背景を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2023年 佐賀公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 稲作によって収穫物の蓄えや土地・水をめぐる争いが集落間で発生したため、外敵から守る必要があった。 | 2. 氷河期が終わり海面の上昇が激しくなったため、集落が水没しないよう高い防波堤を築く必要があった。 | 3. ナウマン象などの大型の獲物を効率よく捕獲するための罟として、村の周囲に深い溝を掘る必要があった。 | 4. 大陸から仏教が伝来し、その寺院を保護するために宗教的な儀礼として堀を巡らせる必要があった。 |
|---|--|---|--|
- 問12 倭の奴国の王が、中国の後漢から金印を授かった紀元1世紀（西暦57年）ごろの世界情勢について、ヨーロッパや地中海周辺の動きを説明したものとして正しいものはどれですか。 (2026年 愛知公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 1. 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた | 2. アレクサンドロス大王が東方遠征を行い、ヘレニズム文化が広がっていた | 3. ギリシャ人が地中海沿岸の各地にポリス（都市国家）を建設し始めた | 4. 西ローマ帝国が滅亡し、ゲルマン人の大移動が本格化していた |
|---------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。	青銅器はもともと大陸では武器や工具として使われていたが、日本に伝わると祭祀用の道具（祭器）として大型化・薄肉化した。銅鐸はその代表例であり、出土数の統計においても兵庫県、島根県、徳島県に次いで、滋賀県や和歌山県といった近畿圏で多く見つかったことが特徴である。
問2	答え 1 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。	稲作によって余剰生産物が生まれると、蓄えの多い者と少ない者の間で貧富の差が生じました。また、水資源を管理するリーダーが権力を持つようになり、小さな集団が統合されて「クニ」が形成されました。それらを統治する「王」が登場したことは、中国の歴史書にも記されています。なお、戸籍による口分田の支給は、後の律令国家の仕組み（班田収授の法）にあたります。
問3	答え 1 豊作などを祈るための祭りの道具	大陸から稲作の技術とともに伝わった青銅器は、当初は武器としての形を持っていましたが、次第に大型化・薄型化していきました。これは実戦で使うためではなく、村のまとまりを強めるための祭りや儀式において、神を祀るための「祭具（祭礼具）」として重宝されるようになったためです。
問4	答え 1 卑弥呼	弥生時代後期、倭（日本）では小国同士の激しい抗争が続いていました。この乱れを収めるために、約30の国々の連合体である邪馬台国の女王として立てられたのが卑弥呼です。彼女はまじないなどの宗教的な力を背景に政治を行い、混乱していた国内をまとめ上げました。
問5	答え 1 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。	当時の倭は多くの小国に分かれて争っていましたが、卑弥呼が強力な魏の皇帝から「倭の王」として認められ、称号や贈り物を授かることは、周辺の国々に対して自らの政治的正当性を示す外交的な手段でした。この記録が残る『魏志倭人伝』によって、当時の日本に存在した邪馬台国の統治体制や社会の様子が現代に伝えられています。
問6	答え 1 後漢書	西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から金印を授かった事実は『後漢書』東夷伝に記されています。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見された「漢委奴国王」の金印は、この記述を裏付ける重要な史料となりました。3世紀の卑弥呼について記された『魏志』倭人伝とは時代が異なるため、区別が必要です。
問7	答え 1 銅鐸	大陸から伝わった金属器の技術により、弥生時代には青銅器や鉄器が作られるようになりました。銅鐸は近畿地方を中心に分布しており、初期のものは音を鳴らすための楽器のような役割でしたが、次第に大型化し、稲作の豊作を祈る祭祀（祭り）のための道具として用いられるようになったと考えられています。
問8	答え 1 当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす楽器として使われたが、次第に大型化し、豊作を祈る儀式で飾るための道具へと変化した。	銅鐸は、古い段階のものは小型で、中に「舌」と呼ばれる棒を吊るして振り、音を鳴らして使われていた痕跡があります。しかし、時代が下るにつれて急激に大型化し、表面にシカやカマキリ、高床倉庫などの精巧な絵画が描かれるようになるなど、音を鳴らす道具から、儀式の際に見せるための祭祀具へと役割が変化していきました。武器から祭祀具に変化したのは銅剣や銅矛の説明であり、土製の焼き物は埴輪、中国皇帝からの授与品は金印や一部の銅鏡（卑弥呼の鏡など）を指します。
問9	答え 1 中国の皇帝に臣下として礼を尽くすことで、自らの支配権の正統性を認めてもらう関係	1世紀には奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、3世紀には邪馬台国の卑弥呼が魏から「親魏倭王」の称号と金印などを授かりました。これらは、中国の皇帝から「位」を認めてもらうことで、国内の他の勢力に対して自らの権威を誇示しようとした外交の形を証明しています。
問10	答え 1 弥生時代	紀元前数世紀から紀元後3世紀頃にかけての日本列島では、大陸から伝わった水稻耕作（稲作）が普及し、食料生産が安定したことで社会の仕組みが大きく変化しました。この時代、鉄器が武器や工具として使われる一方で、銅鐸などの青銅器は豊作を祈るための祭礼具として重宝されました。また、中国の歴史書『漢書』地理志には、当時の日本（倭）が100余りの小国に分かれ、一部の国が楽浪郡を通じて中国（漢）に使者を送っていたことが記されています。
問11	答え 1 稲作によって収穫物の蓄えや土地・水をめぐる争いが集落間で発生したため、外敵から守る必要があった。	弥生時代に稲作が始まると、余剰生産物の貯蔵や、稲作に不可欠な水田・用水をめぐって集落間で利害対立が生じ、戦争が起こるようになりました。吉野ヶ里遺跡に見られる環濠や土塁、物見櫓は、敵の侵入を防ぎ、村を守るための防御施設として機能していました。
問12	答え 1 地中海を囲む広大な地域を統一したローマ帝国が成立していた	日本が後漢と交渉を持っていた紀元1世紀ごろ、ヨーロッパでは地中海全域を支配するローマ帝国が全盛期を迎えていました。この時期は中国の漢王朝とローマ帝国の間で、シルクロードを通じた間接的な交流が行われていた時代でもあります。ギリシャのポリス建設は紀元前8世紀ごろ、アレクサンドロス大王の遠征は紀元前4世紀ごろの出来事です。

- 問1 弥生時代の文化を象徴する遺物である「銅鐸」について、その使用目的や出土傾向を正しく説明しているものはどれか。 (2024年 京都公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。 | 2. 実際の戦いや狩猟で使用するための実戦的な武器として、東日本を中心に広く普及した。 | 3. 縄文時代から続く伝統的な風習において、死者を埋葬する際に手足に装着する装身具として使われた。 | 4. 最新の農耕技術を伝えるための工具として、兵庫県や島根県などの沿岸部のみで限定的に使用された。 |
|--|---|---|---|
- 問2 3世紀頃の日本（倭）の様子について記された中国の歴史書『魏志』倭人伝には、「長年、国々が争い合って混乱していたため、人々は一人の女子を王に立てた」という趣旨の記述があります。このとき、邪馬台国の女王として擁立された人物は誰ですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|---------|---------|
| 1. 卑弥呼 | 2. 老与 | 3. 推古天皇 | 4. 持統天皇 |
|--------|-------|---------|---------|
- 問3 卑弥呼が中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった背景として、最も適切な説明を選びなさい。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 中国の皇帝から統治者としての権威を認められることで、国内の諸勢力との争いを有利に進め、統治を安定させようとしたため。 | 2. 中国から仏教を公式に導入し、宗教の力を用いて人々の思想を統一し、中央集権的な国家を築こうとしたため。 | 3. 魏の軍勢力を借りて朝鮮半島の国々を征服し、鉄資源を独占して経済的な優位性を確立しようとしたため。 | 4. 中国の律令制度を日本に持ち帰り、戸籍の作成や租・庸・調の税制を整えるための助言を求めたため。 |
|---|---|---|---|
- 問4 縄文時代末期から弥生時代にかけて、大陸から伝わった稲作がいち早く開始されたと考えられている、現在の福岡県や佐賀県を含む地域はどこですか。 (2016年 奈良公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 1. 北九州 | 2. 近畿 | 3. 関東 | 4. 東北 |
|--------|-------|-------|-------|
- 問5 日本の弥生時代中期には、現在の千葉県茂原市に位置する宮ノ台遺跡から出土した「宮ノ台式土器」に代表されるような地域独自の文化が見られました。この日本の弥生時代中期と同じ頃、地中海周辺を中心とする世界ではどのような歴史的な動きがありましたか。 (2023年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1. ローマが領土を拡大し、地中海一帯を支配するローマ帝国となった。 | 2. エジプトで巨大なピラミッドが建設され、王の強大な権力が示されていた。 | 3. 中国で殷（商）が成立し、祭祀に用いるための精巧な青銅器が作られていた。 | 4. メソポタミアでハンムラビ王が法典を整え、周辺地域を統一した。 |
|------------------------------------|---------------------------------------|--|-----------------------------------|
- 問6 3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、当時の日本（倭）の様子が記されています。それによると、倭ではもともと男子を王としていましたが、国が乱れて互いに攻め合う状態が数年続きました。この混乱を収めるためにとられた歴史的な経緯として正しいものはどれですか。 (2020年 徳島公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------------|
| 1. 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた | 2. 中国の魏から派遣された総督が直接統治を行った | 3. 狗奴国の王が武力によって全ての小国を制圧した | 4. 仏教を国教として導入し、人々の信仰によって乱れを鎮めた |
|---------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------------|
- 問7 3世紀の中国の歴史書『魏志』倭人伝において、女王卑弥呼が統治していたとされる、当時の日本列島の呼称として適切なものはどれですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|---------|-------|--------|
| 1. 倭国 | 2. 邪馬台国 | 3. 日本 | 4. 高天原 |
|-------|---------|-------|--------|
- 問8 弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に日本列島へ伝わりました。それぞれの金属器が果たした役割の違いについて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 沖縄公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた | 2. 青銅器は加工のしやすさを活かして農具や工具として普及し、鉄器は主に祭りの道具として使われた | 3. 鉄器は定期市での取引を円滑にするために使われ、青銅器はイスラム教の礼拝の道具として使われた | 4. 青銅器は前方後円墳に埋葬するための副葬品として作られ、鉄器は神社の建築のために使われた |
|---|--|--|--|
- 問9 中国の歴史書とそこに記された倭（日本）に関する記述の組み合わせについて、記述内容から判断して「魏志」倭人伝の説明として最も適切なものを選びなさい。 (2024年 沖縄公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 倭人が100余りの国に分かれ、朝鮮半島の楽浪郡に定期的に使者を送っていたとする記述 | 2. 倭の奴国の王が後漢の皇帝から金印を授かり、のちに倭国全体で大きな乱れが起きたとする記述 | 3. 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述 | 4. 倭王が中国の皇帝に対し、自らを「日出づる処の天子」と称する国書を送ったとする記述 |
|--|--|---|---|
- 問10 弥生時代の生活の様子を描いた資料には、人々が稲の収穫作業を行い、その背景に柱の高い建築物が建てられている様子が見られます。収穫したコメを湿気や害獣から守るために、床を高くし「ネズミ返し」と呼ばれる板を柱に取り付けるなどの工夫を施したこの建築物の名称を答えなさい。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|-------|---------|
| 1. 高床倉庫 | 2. たて穴住居 | 3. 貝塚 | 4. 環壕集落 |
|---------|----------|-------|---------|
- 問11 弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった青銅器のうち、表面に幾何学模様や当時の生活・自然の様子が描かれ、釣鐘のような独特の形状をしている道具の主な用途として最も適切なものを選びなさい。 (2023年 三重公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------|------------------------|----------------------|-----------------------------|
| 1. 豊作などを祈るための祭りの道具 | 2. 土を耕し田植えをするための農業用の道具 | 3. 食料を保存し煮炊きをするための道具 | 4. 獲物を捕らえたり身を守ったりするための狩りの道具 |
|--------------------|------------------------|----------------------|-----------------------------|
- 問12 3世紀前半の倭（日本）について記した中国の歴史書である「魏志倭人伝」には、多くの小国を従えた強力な勢力の存在が記されています。この勢力の名称と、周辺の小国を連合させて治めていたとされる女王の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2026年 大阪公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------|-------------|----------------|--------------|
| 1. 邪馬台国 — 卑弥呼 | 2. 奴国 — 卑弥呼 | 3. 邪馬台国 — 推古天皇 | 4. 奴国 — 持統天皇 |
|---------------|-------------|----------------|--------------|
- 問13 弥生時代の高床（式）倉庫において、柱と床が接する部分に「ネズミ返し」と呼ばれる板状の部材が取り付けられた理由として、当時の社会背景を踏まえた説明はどれですか。 (2021年 佐賀公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。 | 2. 大陸から新たな建築技術が伝来し、建物の耐震性を高めて大規模な集落の崩壊を防ぐ必要があったから。 | 3. 定住生活が始まったことで、家畜として飼育し始めた動物が建物内に入り込むを防ぐ必要があったから。 | 4. 集落間の争いが激しくなったため、床下に敵が潜り込んで火を放つことを防ぐ防壁が必要だったから。 |
|--|--|--|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。	青銅器はもともと大陸では武器や工具として使われていたが、日本に伝わると祭祀用の道具（祭器）として大型化・薄肉化した。銅鐸はその代表例であり、出土数の統計においても兵庫県、島根県、徳島県に次いで、滋賀県や和歌山県といった近畿圏で多く見つかったことが特徴である。
問2	答え 1 卑弥呼	弥生時代後期、倭（日本）では小国同士の激しい抗争が続いていました。この乱れを収めるために、約30の国々の連合体である邪馬台国の女王として立てられたのが卑弥呼です。彼女はまじないなどの宗教的な力を背景に政治を行い、混乱していた国内をまとめ上げました。
問3	答え 1 中国の皇帝から統治者としての権威を認められることで、国内の諸勢力との争いを有利に進め、統治を安定させようとしたため。	弥生時代後期の倭国は、多くの小国が乱立し争い合う「倭国大乱」と呼ばれる時代を経て、卑弥呼を女王として共立することで一時的な平和を得ていました。卑弥呼は、当時中国で最も勢力の強かった魏と外交を結ぶことで、その強大な威光を背景に国内の統治をより確固たるものにしようとする外交戦略をとりました。
問4	答え 1 北九州	朝鮮半島などの大陸に近い地理的条件を備えていた北九州は、新しい技術や文化の玄関口となりました。縄文時代末期には既にこの地域で水田稲作が行われていたことを示す遺跡が見つかり、ここから日本列島の各地へと農耕文化が広がっていきました。
問5	答え 1 ローマが領土を拡大し、地中海一帯を支配するローマ帝国となった。	弥生時代中期の日本は、紀元前後を中心とした時期にあたります。この時代、地中海世界では都市国家から発展したローマが周辺諸国を征服し、広大な領土を持つローマ帝国として全盛期を迎えようとしていました。一方で、選択肢にあるエジプトのピラミッド建設や殷の青銅器文化、ハンムラビ王による統一などは、いずれも日本の弥生時代よりさらに数千年から千年以上前の出来事です。
問6	答え 1 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた	当時の倭（日本）では、小国同士が激しく争う「倭国大乱」と呼ばれる時期がありました。この混乱を収拾するため、複数の小国が連合し、まじないや宗教的な権威を持つ卑弥呼を女王として立てることで国内の安定を図ったことが『魏志倭人伝』に記されています。
問7	答え 1 倭国	中国の歴史書では、当時の日本列島やそこに住む人々を「倭」と呼び、その国々を指して「倭国」と表現しました。卑弥呼が都を置いた具体的な場所は「邪馬台国」と記されていますが、日本列島の勢力を総称する当時の呼び名としては「倭国」が用いられています。
問8	答え 1 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた	鉄は青銅よりも硬くて丈夫であるため、木製農具の先を補強する工具や、鋭利な刃物としての武器といった実用的な道具に用いられました。一方で、青銅器は独特の光沢を持つことから権威の象徴や祭りにおける神聖な道具としての性格を強め、鉄器と青銅器で「実用」と「儀礼」という役割の分担がなされました。
問9	答え 3 邪馬台国の卑弥呼が使いを送り、死後には大きな塚が作られて100人余りの人々が殉葬されたとする記述	『魏志』倭人伝は、邪馬台国の政治体制や女王卑弥呼の死、そしてその後の大規模な埋葬儀礼について具体的に伝えています。他の選択肢について、100余りの国に分かれていたとするのは紀元前1世紀頃の「漢書」地理志、金印の授与や倭国の乱れ（倭国大乱）は1世紀から2世紀頃の様子を記した「後漢書」東夷伝、天子を自称したのは7世紀初頭の「隋書」倭国伝の記述です。
問10	答え 1 高床倉庫	弥生時代には大陸から伝わった稲作が東日本を含む日本各地に広まり、食料を保存する必要が生じました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気を防ぎ、コメが腐るのを防ぐとともに、柱の途中に板を取り付けることでネズミなどの害獣が侵入するのを防ぐ仕組みを持っていました。
問11	答え 1 豊作などを祈るための祭りの道具	銅鐸は、弥生時代に青銅鏡や青銅器などとともに大陸から伝えられた青銅器の一種です。当初は音を鳴らすための実用的な鈴としての側面もありましたが、日本で発展するにつれて大型化し、集落の共同体で豊作を祈るなどの祭祀（まつり）に使用される宝器としての役割が強まりました。
問12	答え 1 邪馬台国 ― 卑弥呼	2世紀後半から続いた倭国の大きな戦乱を収めるため、複数の小国の王たちによって卑弥呼が女王として擁立されました。この連合勢力が邪馬台国です。1世紀に後漢へ使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは奴国（なこく）の王であり、卑弥呼とは時代や状況が異なります。
問13	答え 1 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。	弥生時代の大きな特徴は、本格的な稲作の開始により食料の「貯蔵」が可能になったことです。蓄えられた米は人々の命をつなぐ重要な資源であり、これをネズミなどの害獣に食い荒らされることは、集落の存続に関わる重大な問題でした。そのため、物理的に侵入を遮断する「ネズミ返し」という構造が必要とされました。このような食料の蓄積は、後の貧富の差や身分の違い、集落同士の争いにもつながっていきます。

- 問1 九州北部の福岡県付近で発見された弥生土器に象徴される時代には、大陸から青銅器の技術が伝わりました。この青銅器の一つである「銅鐸」は、日本において主にどのような目的で用いられたと考えられていますか。 (2016年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------|--------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| 1. 豊作などを祈るための、祭りの道具 | 2. 脱穀を行う際に使用する、千歯こきなどの農具 | 3. 大陸との交易において支払いに使われた、和同開珎などの貨幣 | 4. 武士が戦場で敵を攻撃するために使用した、実戦用の武器 |
|---------------------|--------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
- 問2 弥生時代に使用された土器の一般的な特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|--|
| 1. 表面に縄目の文様が全体に施されており、厚手で黒褐色をしている。 | 2. 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。 | 3. 呪術的な目的から、表面に激しい隆起や複雑な装飾が施されている。 | 4. ろくろを使用せずに低温で焼かれたため、形が歪んでおり非常に厚くて脆い。 |
|------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|--|
- 問3 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために造られた「高床倉庫」について、床を高く設計した主な目的として最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 岡山公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 床下の通気性を高めて湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害虫が侵入するのを防ぐため。 | 2. 敵からの攻撃をいち早く発見するために、建物全体を物見櫓（ものみやぐら）として活用するため。 | 3. 夏の暑さをしのぐために、地面に深い穴を掘って室内の温度を一定に保つため。 | 4. 洪水による浸水を防ぐために、海岸沿いの低湿地に集落の全ての建物を配置する必要があったため。 |
|---|--|---|--|
- 問4 縄文時代に続く弥生時代に使われた土器は、それ以前の縄文土器と比べて薄くて硬く、赤褐色をしていることが多いという特徴があります。この土器の名称として正しいものはどれか。 (2016年 鳥取公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|---------|
| 1. 弥生土器 | 2. 須恵器 | 3. 土師器 | 4. 黒色土器 |
|---------|--------|--------|---------|
- 問5 弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に日本列島へ伝わりました。それぞれの金属器が果たした役割の違いについて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 沖縄公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた | 2. 青銅器は加工のしやすさを活かして農具や工具として普及し、鉄器は主に祭りの道具として使われた | 3. 鉄器は定期市での取引を円滑にするために使われ、青銅器はイスラム教の礼拝の道具として使われた | 4. 青銅器は前方後円墳に埋葬するための副葬品として作られ、鉄器は神社の建築のために使われた |
|---|--|--|--|
- 問6 歴史上の生産活動の発展において、農具の素材が変化したことは大きな意味を持ちます。鉄製の刃先を用いた農具への変化について説明したものとして、正しい記述を選んでください。 (2016年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---|--|--|
| 1. 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせる工夫により、耕作の効率が向上した | 2. 鉄は加工が困難であったため、刃先も含めてすべて石で代用する手法が普及した | 3. 鉄製の農具は重すぎて実用的ではなかったため、主に祭祀用の道具として使われた | 4. 鉄の刃先が導入された後も、土を耕す作業には一貫して木製のみの道具が使われ続けた |
|--------------------------------------|---|--|--|
- 問7 邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。 (2025年 長野公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------|----------------------------|-------------------------|------------------------------|
| 1. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡 | 2. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印 | 3. 「倭王」の称号と、百済から贈られた七支刀 | 4. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符 |
|---------------------|----------------------------|-------------------------|------------------------------|
- 問8 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 沖縄公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。 | 2. 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。 | 3. 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。 | 4. 竪穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。 |
|---|---|--|--|
- 問9 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。 | 2. 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的統一国家が誕生した。 | 3. 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。 | 4. 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。 |
|---|--|--|---|
- 問10 7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、小野妹子を遣隋使として中国の隋へ派遣しました。その際、中国の皇帝に宛てた手紙の中で「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」という有名な一節を記しました。この外交姿勢の背景にある、従来の中国との関係からの変化について、正しい説明を選びなさい。 (2024年 宮崎公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。 | 2. 中国の皇帝からの称号を拒否し、完全に国交を断絶して鎖国体制を築こうとした。 | 3. 日本の天皇を中国の皇帝よりも上位に位置づけ、中国を日本の属国にしようとした。 | 4. 中国の皇帝に対して朝貢を一切行わず、民間商人による自由貿易のみを求めるようになった。 |
|---|--|---|---|
- 問11 弥生時代の人々が、収穫した米を保存する建物の床を地面から高く設計した理由として、当時の工夫を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ねずみなどの害獣が侵入するのを防ぐため | 2. 床下を家畜の飼育スペースとして利用し、限られた土地を有効に活用するため | 3. 洪水が発生した際に建物全体が水に浮くようにし、米が濡れるのを防ぐため | 4. 敵に米を奪われないよう、床下に深い穴を掘って隠し場所を作るため |
|--|--|---------------------------------------|------------------------------------|
- 問12 日本の弥生時代中期には、現在の千葉県茂原市に位置する宮ノ台遺跡から出土した「宮ノ台式土器」に代表されるような地域独自の文化が見られました。この日本の弥生時代中期と同じ頃、地中海周辺を中心とする世界ではどのような歴史的な動きがありましたか。 (2023年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|---------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1. ローマが領土を拡大し、地中海一帯を支配するローマ帝国となった。 | 2. エジプトで巨大なピラミッドが建設され、王の強大な権力が示されていた。 | 3. 中国で殷（商）が成立し、祭祀に用いるための精巧な青銅器が作られていた。 | 4. メソポタミアでハンムラビ王が法典を整え、周辺地域を統一した。 |
|------------------------------------|---------------------------------------|--|-----------------------------------|
- 問13 弥生時代に稲作が普及すると、土地や水の利用をめぐる集団間の争いが起こるようになりました。こうした外敵の攻撃から集落を守るために、周囲に深い堀や柵を巡らせた当時の集落の形態を何といえますか。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 環濠集落 | 2. 高地性集落 | 3. 竪穴住居 | 4. 高床倉庫 |
|---------|----------|---------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 豊作などを祈るための、祭りの道具	弥生時代に大陸から伝わった青銅器は、銅とスズの合金で作られていました。当初は武器としての形を持っていましたが、日本では次第に大型化・薄型化し、実際に使う武器としてではなく、集落の豊作や繁栄を祈るための祭りや儀式の道具（祭祀具）として発展しました。銅鐸は特に近畿地方を中心に多く発見されています。
問2	答え 2 赤褐色で文様やかざりが少なく、薄くて硬い性質を持っている。	弥生土器は、縄文土器に比べて高い温度で焼かれるようになったため、薄くて硬いという特徴を持ちます。縄文土器に見られるような激しい装飾や複雑な文様は少なくなり、機能性を重視したシンプルな作りが特徴です。
問3	答え 1 床下の通気性を高めて湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害虫が侵入するのを防ぐため。	稲作が本格化した弥生時代には、収穫物を長期間保存する技術が不可欠となりました。高床倉庫は、床を高くすることで風通しを良くして湿気による稲の腐敗を防ぎ、さらに柱の上の部分に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、食料を食い荒らすネズミの侵入を防ぐ工夫が施されていました。
問4	答え 1 弥生土器	弥生土器は、紀元前4世紀頃から始まった弥生時代に使用された土器です。縄文土器が厚手で、比較的低い温度で焼かれたのに対し、弥生土器はより高い温度で焼かれることで、実用性に優れた薄くて丈夫な作りになっています。
問5	答え 1 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた	鉄は青銅よりも硬くて丈夫であるため、木製農具の先を補強する工具や、鋭利な刃物としての武器といった実用的な道具に用いられました。一方で、青銅器は独特の光沢を持つことから権威の象徴や祭りにおける神聖な道具としての性格を強め、鉄器と青銅器で「実用」と「儀礼」という役割の分担がなされました。
問6	答え 1 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせる工夫により、耕作の効率が向上した	古代の農具の改良に関する資料などでは、木製農具の先端部分を鉄で補強する記述が見られます。鉄は木材よりも硬く鋭いため、これを刃先として利用することで土地を効率よく耕し、生産性を高めることができました。こうした技術の進歩が、のちの国力の増大や社会構造の変化を支える基盤となりました。
問7	答え 1 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授かりました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。
問8	答え 1 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。
問9	答え 1 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。	稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生じました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。
問10	答え 1 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。	それまでの朝貢外交は、中国の皇帝を上位、周辺諸国の君主を下位とする主従関係が前提でした。しかし、聖徳太子が送った手紙は、日本の君主も中国と同じ「天子」という称号を用いることで、形式上の臣下という立場から脱却し、より対等に近い国際関係を築こうとする意図が含まれていました。これに対し、隋の煬帝は不快感を示しましたが、当時の朝鮮半島的情勢などもあり、日本との関係を維持しました。
問11	答え 1 風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ねずみなどの害獣が侵入するのを防ぐため	収穫した米は湿気に弱く、カビが生えやすいため、床を高くして風通しを確保する工夫がなされました。また、柱の上の部分に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けるなど、食料を害獣から守るための構造的な特徴を持っています。
問12	答え 1 ローマが領土を拡大し、地中海一帯を支配するローマ帝国となった。	弥生時代中期の日本は、紀元前後を中心とした時期にあたります。この時代、地中海世界では都市国家から発展したローマが周辺諸国を征服し、広大な領土を持つローマ帝国として全盛期を迎えようとしていました。一方で、選択肢にあるエジプトのピラミッド建設や殷の青銅器文化、ハンムラビ王による統一などは、いずれも日本の弥生時代よりさらに数千年から千年以上前の出来事です。
問13	答え 1 環濠集落	稲作の開始によって収穫物の貯蔵が可能になり、富をめぐる集団間の対立が発生しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるように、当時の人々は居住区の周囲に堀（環濠）を掘ったり、木の杭による柵を設けたりすることで、外部からの侵入を防ぐ工夫をしていました。これが環濠集落です。

- 問1 佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表される弥生時代の文化や社会状況について述べた文として、背景や当時の国際関係を含めて説明したものとして正しいものを選択してください。 (2015年 佐賀公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 有柄細形銅剣などの青銅器が大陸から伝わり、女王卑弥呼が魏へ使者を送るなど大陸の王朝との交流を通じて自らの権威を高めた。 | 2. 巨大な前方後円墳が各地に築かれ、ヤマト政権が近畿地方を中心に統一国家としての基盤を固めた。 | 3. 百濟から仏教が伝来し、聖徳太子が大陸の進んだ制度を取り入れるために十七条の憲法を制定した。 | 4. 稲作が普及して定住が進んだが、大陸との交流は途絶えており、日本独自の国風文化が形成された。 |
|--|--|--|--|
- 問2 弥生時代の社会や文化について述べた次の文のうち、近畿地方を中心に分布する青銅器である「銅鐸」の特徴や背景を説明したものとして最も適切なものはどれか。 (2020年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。 | 2. 死者を埋葬する際に副葬品として納められた装飾品で、魔除けなどの意味を持っていた。 | 3. 古墳の墳丘に並べられた焼き物であり、葬られた王の権威を示したり聖域を区切ったりする役割があった。 | 4. 実用的な武器として使われたのち、次第に祭祀用へと変化したもので、九州地方北部で多く出土する。 |
|--|---|---|---|
- 問3 邪馬台国の女王卑弥呼が、当時の中国の王朝である魏に使いを送った背景やその後の状況を説明した文として、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 山形公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。 | 2. 大陸の優れた仏教文化を直接取り入れるために、公式な使節として小野妹子を魏の都へ派遣した。 | 3. 倭の奴国の王として、後漢の皇帝から金印を授かり、九州地方の交易の利権を独占しようとした。 | 4. 秦の始皇帝に対して不老不死の薬を献上することで、国内の争いを鎮めるための軍事支援を求めた。 |
|--|---|---|--|
- 問4 7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、小野妹子を遣隋使として中国の隋へ派遣しました。その際、中国の皇帝に宛てた手紙の中で「日出づるところの天子、書を日没するところの天子に致す…」という有名な一節を記しました。この外交姿勢の背景にある、従来の中国との関係からの変化について、正しい説明を選びなさい。 (2024年 宮崎公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。 | 2. 中国の皇帝からの称号を拒否し、完全に国交を断絶して鎖国体制を築こうとした。 | 3. 日本の天皇を中国の皇帝よりも上位に位置づけ、中国を日本の属国にしようとした。 | 4. 中国の皇帝に対して朝貢を一切行わず、民間商人による自由貿易のみを求めるようになった。 |
|---|--|---|---|
- 問5 弥生時代に使用された青銅器である「銅鐸」の変化や、当時の社会における役割について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2020年 山口公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす楽器として使われたが、次第に大型化し、豊作を祈る儀式で飾るための道具へと変化した。 | 2. もともとは実戦で使うための鋭い刃を持つ武器であったが、次第に大型で薄い形状になり、首長の権威を示すための宝物として扱われるようになった。 | 3. 死者の霊を守るためや王の権力を誇示するために、古墳の表面に並べられた土製の焼き物として、全国各地の有力な豪族の間で広まった。 | 4. 大陸の王朝から日本の王に授けられたもので、金印とともに当時の日本が中国の皇帝に認められていたことを示す外交上の重要な証拠となった。 |
|---|---|---|--|
- 問6 3世紀の日本において、30余りの小国を従えていた邪馬台国の女王は、中国の王朝である魏に使者を送りました。この女王が魏の皇帝から授かった称号として正しいものはどれか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|----------|----------|
| 1. 親魏倭王 | 2. 倭王武 | 3. 漢委奴国王 | 4. 征夷大將軍 |
|---------|--------|----------|----------|
- 問7 1世紀半ばの日本（倭）において、九州にあった奴国の王が中国の王朝に使者を送り、皇帝から金印を授けられたという記録が中国の歴史書に残されています。このとき、奴国の王に金印を授けた中国の王朝として正しいものを次の中から選びなさい。 (2026年 山口公立入試 類似)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 漢 | 2. 秦 | 3. 魏 | 4. 隋 |
|------|------|------|------|
- 問8 奈良県にある唐古・鍵遺跡のような、周囲を深い濠（ほり）で囲んだ「環濠集落」からは、高床の建物が描かれた土器などが出土しています。このように、集落の周りに濠を巡らせた主な目的と、この時代の近畿地方において主に祭祀（お祭り）の道具として使われていた青銅器の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2018年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------|--------------------------|-----------------------------|---------------------------|
| 1. 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため／青銅器：銅鐸 | 2. 目的：水害から住居を守るため／青銅器：銅鐸 | 3. 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため／青銅器：土偶 | 4. 目的：水害から住居を守るため／青銅器：はにわ |
|-----------------------------|--------------------------|-----------------------------|---------------------------|
- 問9 日本の歴史における、弥生時代の社会の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 山口公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 大陸から稲作の技術が伝わり、水田の近くで共同生活を送る「むら」と呼ばれる集落がつくられるようになった。 | 2. 日本列島がまだ大陸と陸続きであったため、人々はナウマンゾウなどの大型の動物を追って移動しながら生活していた。 | 3. 衣類に用いる素材として麻に代わり綿（木綿）が全国的に普及し、庶民の生活水準が大きく向上した。 | 4. 農業の生産力を高めるために、同じ耕地で一年に二種類の作物を栽培する二毛作の技術が全国的に広まった。 |
|--|---|---|--|
- 問10 弥生時代に邪馬台国の卑弥呼が、中国の魏に使いを送った政治的な理由として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものを選択してください。 (2015年 佐賀公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 「倭国大乱」と呼ばれる国内の激しい争いを鎮め、魏の皇帝から称号を得ることで国内における統治の正当性を示すため。 | 2. 律令国家の仕組みを学ぶために、魏の進んだ法制度や官僚機構を日本に導入して中央集権化を図るため。 | 3. 鉄製農具の使用を全国に普及させるため、魏から大量の鉄資源を安価に輸入する独占的な貿易ルートを確保するため。 | 4. 日本列島に迫っていた魏の軍事的侵攻を回避するため、多額の貢ぎ物を持参して講和を結ぶため。 |
|--|--|--|---|
- 問11 弥生時代における「青銅器」と「鉄器」の使われ方の違いについて説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 大阪公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 鉄器は武器や農具などの実用的な道具として用いられ、青銅器は祭りや儀式のための宝物として用いられた。 | 2. 青銅器は武器や農具などの実用的な道具として用いられ、鉄器は祭りや儀式のための宝物として用いられた。 | 3. 鉄器も青銅器も、ともに稲作を効率化するための農具としてのみ、実用的に普及した。 | 4. 鉄器は縄文時代から日本列島で独自に作られていたが、青銅器は弥生時代になって初めて大陸から伝わった。 |
|--|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 有柄細形銅剣などの青銅器が大陸から伝わり、女王卑弥呼が魏へ使者を送るなど大陸の王朝との交流を通じて自らの権威を高めた。	吉野ヶ里遺跡は、大規模な環濠集落や有柄細形銅剣などの出土品から、弥生時代の社会構造や大陸とのつながりを示す重要な遺跡です。この時代、稲作の普及により余剰生産物が生まれ、貧富の差や土地を巡る争いが発生しました。その中で誕生した邪馬台国の卑弥呼は、中国の魏と外交を行うことで、大陸の進んだ文化や宝物、そして皇帝からの公認という「権威」を獲得し、国内の小国をまとめようとしていました。古墳の造営や仏教の伝来は後の時代の出来事です。
問2	答え 1 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。	銅鐸は、弥生時代の人々にとって極めて重要であった稲作の祭礼に深く関わっています。表面に描かれた鹿を狩る様子や、高床倉庫、脱穀する人々の姿などの絵画資料は、文字を持たなかった当時の社会を知るための貴重な手がかりとなっています。なお、九州北部で多く見られるのは銅剣や銅矛であり、銅鐸とは分布域が異なります。
問3	答え 1 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。	当時の倭は多くの小国に分かれて争っていましたが、卑弥呼が強力な魏の皇帝から「倭の王」として認められ、称号や贈り物を授かることは、周辺の国々に対して自らの政治的正当性を示す外交的な手段でした。この記録が残る『魏志倭人伝』によって、当時の日本に存在した邪馬台国の統治体制や社会の様子が現代に伝えられています。
問4	答え 1 中国の皇帝に対して臣下として従う従来の形式をとりつつも、対等な立場での外交を目指そうとした。	それまでの朝貢外交は、中国の皇帝を上位、周辺諸国の君主を下位とする主従関係が前提でした。しかし、聖徳太子が送った手紙は、日本の君主も中国と同じ「天子」という称号を用いることで、形式上の臣下という立場から脱却し、より対等に近い国際関係を築こうとする意図が含まれていました。これに対し、隋の煬帝は不快感を示しましたが、当時の朝鮮半島的情勢などもあり、日本との関係を維持しました。
問5	答え 1 当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす楽器として使われたが、次第に大型化し、豊作を祈る儀式で飾るための道具へと変化した。	銅鐸は、古い段階のものは小型で、中に「舌」と呼ばれる棒を吊るして振り、音を鳴らして使われていた痕跡があります。しかし、時代が下るにつれて急激に大型化し、表面にシカやカマキリ、高床倉庫などの精巧な絵画が描かれるようになるなど、音を鳴らす道具から、儀式の際に見せるための祭祀具へと役割が変化していきました。武器から祭祀具に変化したのは銅剣や銅矛の説明であり、土製の焼き物は埴輪、中国皇帝からの授与品は金印や一部の銅鏡（卑弥呼の鏡など）を指します。
問6	答え 1 親魏倭王	中国の歴史書『魏志』倭人伝には、239年に邪馬台国の卑弥呼が魏に使者を送ったことが記されています。魏の皇帝は卑弥呼に対し、魏と親しい倭の王であることを示す「親魏倭王」の称号と、金印や多数の銅鏡（三角縁神獣鏡など）を授け、彼女の支配権を国際的に認めました。
問7	答え 1 漢	中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から印綬（金印）を授かったことが記されています。この金印は、江戸時代に福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の文字が刻まれたものと一致すると考えられています。設問にある1世紀という時期は、中国では漢（後漢）の時代にあたります。
問8	答え 1 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため／ 青銅器：銅鐸	弥生時代の遺跡に見られる「環濠集落」は、稲作が始まり蓄えができたことで発生した、集落同士の争いに備えた防御施設としての性質を持っています。奈良県の遺跡から出土した建物が描かれた土器などは、当時の生活の様子を伝える貴重な情報源です。また、この時代には大陸から青銅器の技術が伝わりましたが、特に近畿地方では鐘のような形をした「銅鐸」が作られ、豊作を祈るなどの祭りの道具として用いられました。土偶は縄文時代の呪術的な道具、はにわは古墳時代に古墳に並べられたものです。
問9	答え 1 大陸から稲作の技術が伝わり、水田の近くで共同生活を送る「むら」と呼ばれる集落がつくられるようになった。	弥生時代には、大陸から伝来した稲作によって定住生活が本格化しました。水田の管理や収穫には集団での協力が必要だったため、人々は水田の近くに「むら」を形成するようになりました。日本列島が大陸と陸続きだったのは旧石器時代の特徴です。また、綿（木綿）の普及は江戸時代、二毛作が全国的に広まったのは鎌倉時代から室町時代にかけての出来事です。
問10	答え 1 「倭国大乱」と呼ばれる国内の激しい争いを鎮め、魏の皇帝から称号を得ることで国内における統治の正当性を示すため。	2世紀後半の日本は「倭国大乱」と呼ばれる激しい内乱状態にありました。これを収めるために共立されたのが女王卑弥呼です。彼女が魏に使いを送った主な目的は、中国という当時の東アジアの超大国から「親魏倭王」という称号を授かることで、国内の他の勢力に対し、自分が正当な支配者であることを誇示することにあります。授かった銅鏡などの宝物も、その権威を裏付ける道具として利用されました。なお、律令制度の導入は飛鳥時代以降の課題であり、この時期の目的ではありません。
問11	答え 1 鉄器は武器や農具などの実用的な道具として用いられ、青銅器は祭りや儀式のための宝物として用いられた。	弥生時代に伝来した二種類の金属器は、硬度の違いによって用途が明確に分かれていました。鉄は非常に硬く、鋭い刃先を保つことができるため実用具に向いていました。一方、青銅は鉄に比べると脆いものの、鑄造が容易で美しい光沢を持つため、銅鏡や銅鐸、銅剣といった祭祀（まつり）や権威を示すための道具として利用されました。

- 問1 鳥取県の青谷上寺地遺跡などの出土品をまとめた資料では、木製品や骨角器とともに、石器、金属器、そしてこの時代の特徴的な土器が並んで示されています。これらの道具が併用されていた弥生時代の土器に見られる、縄文土器と比較した際の外見上の特徴として、最も適切なものはどれか。 (2016年 鳥取公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である | 2. 表面に縄目のような力強い文様がつけられ、全体的に厚手である | 3. 青灰色をしており、非常に硬く焼かれた朝鮮半島由来の技術で作られている | 4. 仏教の儀式に用いるために、表面に金色の装飾や仏像が描かれている |
|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|
- 問2 弥生時代の日本における生活や道具について述べた次の文のうち、歴史的事実として正しいものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された | 2. ナウマンゾウなどの大型の動物を捕らえて主な食料としていた | 3. 表面に縄目の文様がついた土器が、煮炊きや貯蔵に広く使われた | 4. 大陸から渡来人によって仏教が伝えられ、寺院が建立され始めた |
|-------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
- 問3 弥生時代に稲作が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。集落を外敵からの攻撃から守るために、周囲に深い堀を掘り、木の柵を設置した集落を何と呼びますか。 (2024年 沖縄公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|-----------|
| 1. 高床倉庫 | 2. 環濠集落 | 3. 石舞台古墳 | 4. 三内丸山遺跡 |
|---------|---------|----------|-----------|
- 問4 弥生時代の遺跡から見つかる、はしごを使って出入りする形式の建築物について、この建物が普及した背景として最もふさわしい歴史的な出来事はどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。 | 2. 気候の寒冷化が進んだため、人々が地面の冷気から逃れるために生活拠点を高い場所へ移したこと。 | 3. 仏教が伝来し、寺院の建築様式として床を高く作る技術が大陸から導入されたこと。 | 4. 大規模な戦争が絶えなかったため、敵を見張りやすくするために全ての建物を高く作ったこと。 |
|--|--|---|--|
- 問5 縄文時代に続く弥生時代に使われた土器は、それ以前の縄文土器と比べて薄くて硬く、赤褐色をしていることが多いという特徴があります。この土器の名称として正しいものはどれか。 (2016年 鳥取公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|---------|
| 1. 弥生土器 | 2. 須恵器 | 3. 土師器 | 4. 黒色土器 |
|---------|--------|--------|---------|
- 問6 弥生時代における「ムラ同士の争い」は、その後の日本の社会構造にどのような変化をもたらしましたか。当時の社会の流れとして最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された | 2. 争いを避けるために人々が再び移動生活に戻り、定住する集落が一時的に消滅した | 3. すべての人が平等に食料を分配する仕組みが作られ、身分の差が完全になくなった | 4. 争いを鎮めるために、各集落が完全に独立したまま交流を断つ鎖国のような状態になった |
|---|--|--|---|
- 問7 邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。 (2025年 長野公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------|----------------------------|-------------------------|------------------------------|
| 1. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡 | 2. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印 | 3. 「倭王」の称号と、百済から贈られた七支刀 | 4. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符 |
|---------------------|----------------------------|-------------------------|------------------------------|
- 問8 弥生時代の遺跡からは、青銅器と鉄器という二種類の金属器が発見されています。鉄器が農具の刃先として普及したことが、当時の社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 大阪公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|---|---|
| 1. 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。 | 2. 農具が重くなったことで、小規模な家族単位での農業が不可能になった。 | 3. 青銅器よりも希少価値が高かったため、王の権威を示すための宝物としてのみ扱われた。 | 4. 石器に比べて加工が簡単だったため、各家庭で容易に自給できるようになった。 |
|------------------------------------|--------------------------------------|---|---|
- 問9 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。 (2026年 滋賀公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|-------|---------|
| 1. 青銅器 | 2. 鉄器 | 3. 埴輪 | 4. 磨製石器 |
|--------|-------|-------|---------|
- 問10 弥生時代の遺跡からは、稲作に関連する様々な道具や施設が発見されています。収穫した稲の穂首を摘み取るために用いられた石器と、穀物を湿気やネズミなどの害獣から守るために床を高くした貯蔵用の施設の組み合わせとして、正しいものはどれですか。 (2017年 岡山公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|---------------|-------------|--------------|
| 1. 石包丁と高床倉庫 | 2. 銅剣・銅矛と高床倉庫 | 3. 石包丁と竪穴住居 | 4. 和同開珎と高床倉庫 |
|-------------|---------------|-------------|--------------|
- 問11 中国の歴史書『魏志倭人伝』の中で、邪馬台国の女王が即位した経緯や背景について説明した一節があります。その内容として最も適切な説明を次から選びなさい。 (2026年 岐阜公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. もともと男子を王としていたが、国の中が乱れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女子を王とした。 | 2. 仏教の教えを広めることで民衆の心を安定させるため、優れた徳を持つ女子が大陸から招かれて王となった。 | 3. それまでの世襲制を廃止し、中国の皇帝による直接的な任命によって、最も外交能力の高い女子を王とした。 | 4. 大規模な干ばつや飢饉が続いたため、農業の神に仕える特別な血筋を持つ女子を王とした。 |
|--|--|--|--|
- 問12 日本列島と朝鮮半島の位置関係を示した地図において、九州地方の北部（現在の佐賀県付近）に位置し、大陸との交流や当時の防御の様子を今に伝える弥生時代の代表的な遺跡はどれか、選びなさい。 (2020年 和歌山公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|
| 1. 吉野ヶ里遺跡 | 2. 登呂遺跡 | 3. 三内丸山遺跡 | 4. 岩宿遺跡 |
|-----------|---------|-----------|---------|
- 問13 弥生時代に使用された青銅器である「銅鐸」の変化や、当時の社会における役割について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2020年 山口公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす楽器として使われたが、次第に大型化し、豊作を祈る儀式で飾るための道具へと変化した。 | 2. もともとは実戦で使うための鋭い刃を持つ武器であったが、次第に大型で薄い形状になり、首長の権威を示すための宝物として扱われるようになった。 | 3. 死者の霊を守るためや王の権力を誇示するために、古墳の表面に並べられた土製の焼き物として、全国各地の有力な豪族の間で広まった。 | 4. 大陸の王朝から日本の王に授けられたもので、金印とともに当時の日本が中国の皇帝に認められていたことを示す外交上の重要な証拠となった。 |
|---|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である	弥生土器は、装飾が豊かだった縄文土器と比較して、表面に細目の文様が施されるなどデザインが簡素化され、調理や貯蔵に適した薄くて機能的な形状へと変化しました。青谷上寺地遺跡のように、金属器や木製品など多様な道具が登場した背景には、稲作を中心とした計画的な生産活動への移行があります。
問2	答え 1 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された	弥生時代は、大陸から伝わった稲作や金属器の使用が始まった時代です。食料確保の手段が狩猟・採集から農耕へと大きく変化し、稲の収穫には石包丁が使われました。大型動物の狩猟は旧石器時代、縄文土器の使用は縄文時代、仏教の伝来は古墳時代から飛鳥時代にかけての出来事です。
問3	答え 2 環濠集落	弥生時代には、食料の備蓄や土地の所有をめぐる集落間での争いが生じました。そのため、集落の防御機能を高めるために周囲を堀や柵で囲む工夫がなされました。代表的な遺跡として、佐賀県の吉野ヶ里遺跡が有名です。
問4	答え 1 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。	高床倉庫の普及は、弥生時代の最大の特徴である稲作（水田稲作）の普及と密接に関連しています。縄文時代の狩猟・採集中心の生活とは異なり、稲作は計画的な生産と「余剰生産物」の貯蔵を可能にしました。この「蓄え」としての米をネズミや湿気から守るために、高床倉庫という特殊な建築様式が発達したのです。この貯蔵の有無は、のちに集団内での貧富の差や、土地や水を巡る戦いへとつながる社会構造の変化の出発点となりました。
問5	答え 1 弥生土器	弥生土器は、紀元前4世紀頃から始まった弥生時代に使用された土器です。縄文土器が厚手で、比較的低い温度で焼かれたのに対し、弥生土器はより高い温度で焼かれることで、実用性に優れた薄くて丈夫な作りになっています。
問6	答え 1 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された	土地や水をめぐる争いは、勝利した集落が敗北した集落を吸収・統合するプロセスでもありました。これにより、複数の「ムラ」が統合されて「クニ」へと大規模化し、その中心に王のような強力な指導者が現れることで、初期の国家形成へとつながっていきました。
問7	答え 1 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授かりました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。
問8	答え 1 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。	鉄は青銅よりも非常に硬いため、木製の農具の先端に装着することで、硬い土を掘り起こしたり森林を切り拓いたりすることが可能になりました。これにより耕作面積が拡大し、農業の生産性が飛躍的に高まりました。一方、祭祀用として重宝されたのは、鉄器ではなく主に青銅器（銅鏡や銅鐸など）の方でした。
問9	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から稲作とともに金属器の文化が伝来しました。硬くて鋭い鉄器が武器や農具として実生活で役立てられたのに対し、美しく光る青銅器は神聖なものとして扱われ、村の祭りや儀式で使われる宝物としての役割を担いました。
問10	答え 1 石包丁と高床倉庫	弥生時代に始まった稲作では、磨製石器の一種である石包丁を用いて、稲の穂の部分だけを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。また、収穫した穀物を安全に保管するため、風通しを良くして湿気を防ぎ、柱に「ネズミ返し」という板を取り付けてネズミの侵入を防ぐ工夫がなされた高床倉庫が作られました。
問11	答え 1 もともと男子を王としていたが、国の中が乱れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女子を王とした。	史料には「その国、本また男子を以て王となし、住まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす」という記述があります。これは、2世紀後半に起こったとされる「倭国大乱」という戦乱状態を収拾するために、呪術的な権威を持つ卑弥呼を王に立てることで、諸国の連合体としての安定を図ったことを示しています。
問12	答え 1 吉野ヶ里遺跡	弥生時代に現在の佐賀県に築かれた、大規模な環濠集落（かんごうしゅうらく）の跡です。物見やぐらや二重の濠、大規模な墳丘墓などが発見されており、クニの成立過程や大陸との交流を研究する上で極めて重要な遺跡です。静岡県登呂遺跡や青森県三内丸山遺跡とは所在地や時代、特徴が異なります。
問13	答え 1 当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす楽器として使われたが、次第に大型化し、豊作を祈る儀式で飾るための道具へと変化した。	銅鐸は、古い段階のものは小型で、中に「舌」と呼ばれる棒を吊るして振り、音を鳴らして使われていた痕跡があります。しかし、時代が下るにつれて急激に大型化し、表面にシカやカマキリ、高床倉庫などの精巧な絵画が描かれるようになるなど、音を鳴らす道具から、儀式の際に見せるための祭祀具へと役割が変化していきました。武器から祭祀具に変化したのは銅剣や銅矛の説明であり、土製の焼き物は埴輪、中国皇帝からの授与品は金印や一部の銅鏡（卑弥呼の鏡など）を指します。